

建築行政共用データベースシステム

道路情報登録閲覧システム

データ交換仕様

第2.0.0版

財団法人 建築行政情報センター

【目次】

第1章 データ交換仕様の概要	1
1.1. データベースの構成とデータ交換仕様.....	1
1.2. 共通仕様.....	2
1.2.1. 測地系と座標系.....	2
1.2.2. ファイル形式.....	3
1.2.3. フォルダ構成.....	4
1.2.4. 地図交換フォーマット（Shapeファイル）の仕様.....	7
1.2.5. Shapeファイルのファイル構成.....	7
1.2.6. 文字コード.....	8
1.2.7. 地図レイヤと属性の関係.....	8
1.2.8. 線（ライン）の入力規則.....	8
1.2.9. 面（ポリゴン）の入力規則.....	8
1.2.10. 注記（文字列）の入力規則.....	9
1.3. 作成データの確認方法.....	9
1.3.1. ArcExplorerのダウンロードとインストール.....	9
1.3.2. ArcExplorerを使ったShapeファイル構造確認方法.....	10
第2章 背景図データ交換仕様	12
2.1. 対象範囲.....	12
2.2. 交換ファイル仕様.....	13
2.2.1. 地理的範囲定義ファイルの仕様.....	13
2.2.2. 地図データリスト定義ファイルの仕様.....	14
2.2.3. 地図データファイルの仕様.....	15
2.2.4. メッシュ管理ファイルの仕様.....	17
2.2.5. シンボルイメージファイルの仕様.....	18
2.2.6. 画像管理ファイルの仕様.....	18
2.2.7. 背景図（画像）ファイルの仕様.....	20
2.2.8. フォルダ構成.....	21
2.3. 利用可能なデータについて.....	23
2.4. 作成にあたっての留意事項.....	23
2.4.1. 情報の縮尺.....	23
2.4.2. 情報の単位.....	24
第3章 指定道路図データ交換仕様	25

3.1. 対象範囲.....	25
3.2. 交換ファイル仕様.....	26
3.2.1. 指定道路等の仕様.....	26
3.2.2. 道路付帯情報の仕様.....	28
3.2.3. ファイル命名規則.....	29
3.2.4. フォルダ構成.....	30
3.3. 作成にあたっての留意事項.....	31
3.3.1. 情報の単位.....	31
3.3.2. 指定道路図と形状の対応.....	31
第4章 位置検索・索引図データ交換仕様.....	32
4.1. 対象範囲.....	32
4.2. 交換ファイル仕様.....	33
4.2.1. 位置検索データ（住所）の仕様.....	33
4.2.2. 位置検索データ（目標物）の仕様.....	35
4.2.3. 地番検索データの仕様.....	36
4.2.4. 索引図データの仕様.....	38
4.2.5. フォルダ構成.....	39
4.3. 利用可能なデータについて.....	40
4.3.1. 位置検索データ（住所）として利用可能なデータ.....	40
4.3.2. 位置検索データ（目標物）として利用可能なデータ.....	40
4.3.3. 索引図データとして利用可能なデータ.....	41
4.4. 作成にあたっての留意事項.....	41
4.4.1. 情報の縮尺.....	41
第5章 指定道路調書データ交換仕様.....	42
5.1. 対象範囲.....	42
5.2. 指定道路調書データ交換ファイル.....	42
5.3. 指定道路調書データ交換ファイルについて.....	43
5.3.1. 各ファイルの説明.....	43
5.3.2. 各ファイル間の関連.....	43
5.4. ファイルフォーマット.....	44
5.4.1. 各フォーマット共通事項.....	44
5.4.2. 指定道路調書フォーマット.....	45
5.4.3. 添付ファイルフォーマット.....	47
5.4.4. 申請者フォーマット.....	47
5.5. 添付ファイル（実データ）の構成.....	48

5.6. 各CSVファイル間の紐付け情報について	49
5.6.1. 指定道路調書.csvファイルの紐付け情報	49
5.6.2. 添付ファイル.csvファイルの紐付け情報	49
5.6.3. 申請者.csvファイルの紐付け情報	49
5.7. 作成にあたっての留意事項	50
5.7.1. 各CSVファイルのSEQ番号について	50
5.7.2. 添付ファイル.csvファイルの設定内容と添付ファイル（実データ）の関連について	51
第6章 公開範囲データ交換仕様	52
6.1. 対象範囲	52
6.2. 交換ファイル仕様	53
6.2.1. 公開範囲データの仕様	53
6.2.2. ファイル命名規則	53
第7章 概要書図形データ交換仕様	54
7.1. 対象範囲	54
7.2. 交換ファイル仕様	55
7.2.1. 概要書図形の仕様	55
7.2.2. ファイル命名規則	55
7.2.3. フォルダ構成	56
7.3. 作成にあたっての留意事項	56
7.3.1. 情報の単位	56
第8章 付録 システムへのインポート形式について	57

はじめに

本書は、道路情報登録閲覧システム（以下「本システム」という。）を活用して、指定道路等に係る情報を管理するために必要となる「背景図データ」「指定道路図データ」「位置検索・索引図データ」「指定道路調書データ」を、本システムに登録するためのデータ交換仕様を規定したものである。

なお、本書は道路情報登録閲覧システムとのデータ交換を目的としたものであり、本書の目的外の利用により発生する問題や交換するデータの品質等について、(財)建築行政情報センターは一切の責任を負わない。

【改定履歴】

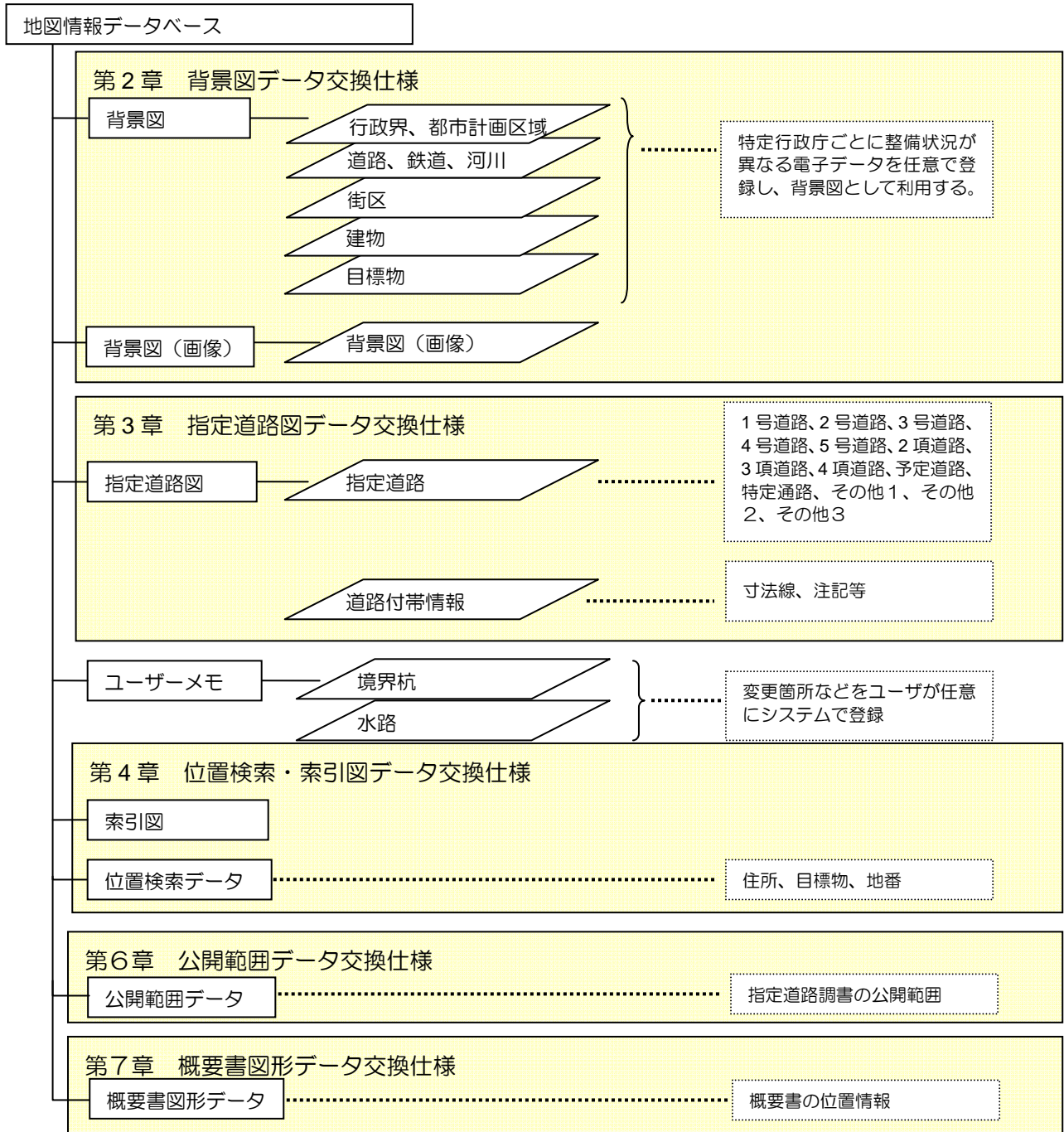
版	更新日	改定内容
第2.0.0版	2010/3/19	<ul style="list-style-type: none"> 道路種別「その他」を「その他1」に変更、「その他2」・「その他3」を追加 道路種別「地番検索データ（面）」を「筆界」に変更 道路種別「地番検索データ（注記）」を「地番」に変更 概要書図形データの章を追記。 公開範囲データの章を追記。 平面直角座標系のXIII～XV系の適用区域の説明の修正
第1.1.2版	2009/5/18	<ul style="list-style-type: none"> 指定道路調書データのファイル名を任意のファイル名に修正。 表のタイトルを一部修正。 誤字訂正。
第1.1.1版	2009/3/24	<ul style="list-style-type: none"> メッシュ管理ファイルの仕様について文言を修正。 2.2.交換ファイル仕様の分類数の表記が、背景図（画像）が追加される前の数になっていたものを修正
第1.1.0版	2008/12/15	<ul style="list-style-type: none"> 背景図に画像を利用するための仕様を追記。 システムへのインポート形式について追記 ArcExplorerで背景図などの属性のないデータを参照できないことについて追記
第1.0.2版	2008/11/27	<ul style="list-style-type: none"> 位置検索・索引図データとして利用可能なデータに基盤地図情報を追加。 5.4.1.(2) 衍字の修正。 ArcExplorerで属性を参照する操作方法を修正。 背景図の地図表示最大縮尺、地図表示最小縮尺の内容の説明を修正。 道路付帯情報（注記）の図形識別子を背景（注記）と合わせてtxtに変更。 （システム Ver1.0.1 において、図形が背景、付帯情報に関わらず注記の図形識別子は改定前の pnt、改定後の txt のどちらでもデータインポート可能とした。） Shape ファイルの仕様書と ArcExplorer の URL を修正。
第1.0.1版	2008/11/19	<ul style="list-style-type: none"> 背景図の地図表示最大縮尺の範囲を修正。 背景図として利用可能なデータの例示に基盤地図情報を追加。
第1.0.0版	2008/10/24	<ul style="list-style-type: none"> 指定道路図対照番号の入力値制限の追加。 座標の説明の補足。 ラインデータ作成時の制約の緩和。 始点、終点が異なることという文を削除した。 作成したShape形式のデータ構造の確認を簡易にする方法を追記。
第0.91c版	-	<ul style="list-style-type: none"> 先行公開版。

第1章 データ交換仕様の概要

本項では、道路情報登録閲覧システム（以下、本システム）で管理する指定道路調書、指定道路図、背景地図および位置検索情報・索引図を登録するためのデータ交換仕様について概要を示す。

1.1. データベースの構成とデータ交換仕様

本システムで管理するデータベース構成と本書で対象とするデータ交換仕様の関係は、以下の通りである。



調査情報データベース

第 5 章 指定道路調査データ交換仕様

指定道路調査

管理情報データベース

図 1-1 データベースとデータ交換仕様の関係

1.2. 共通仕様

本データ交換仕様での共通的な仕様を以下に示す。

1.2.1. 測地系と座標系

測地系は日本測地系 2000 とし、座標系は平面直角座標系とする。数学では Y 軸が縦軸であるが測量では X 軸が縦軸になる。本仕様書では、縦軸を X 軸として表記している。

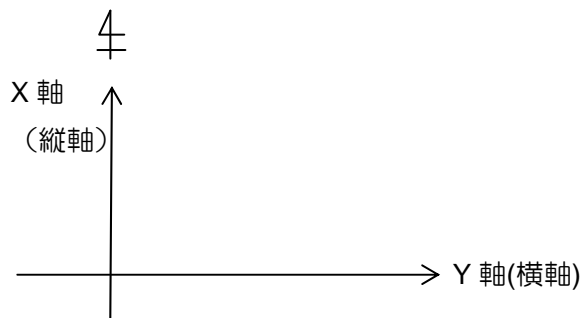


図 1-2 縦軸、横軸の定義

平面直角座標系の区分を以下に示す。

表 1-1 平面直角座標系の区分

系	適用区域
I	長崎県 鹿児島県のうち北方北緯 32 度南方北緯 27 度西方東経 128 度 18 分東方東経 130 度を境界線とする区域内（奄美群島は東経 130 度 13 分までを含む。）にあるすべての島、小島、環礁及び岩礁
II	福岡県、佐賀県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県（第 I 系に規定する区域を除く。）
III	山口県、島根県、広島県
IV	香川県、愛媛県、徳島県、高知県
V	兵庫県、鳥取県、岡山県

系	適用区域
VI	京都府、大阪府、福井県、滋賀県、三重県、奈良県、和歌山県
VII	石川県、富山県、岐阜県、愛知県
VIII	新潟県、長野県、山梨県、静岡県
IX	東京都（XIV系、XVIII系及びXIX系に規定する区域を除く。）、福島県、栃木県、茨城県、埼玉県、千葉県、群馬県、神奈川県
X	青森県、秋田県、山形県、岩手県、宮城県
XI	小樽市、函館市、伊達市、胆振支庁管内のうち有珠郡及び虻田郡、檜山支庁管内、後志支庁管内、渡島支庁管内
XII	札幌市、旭川市、稚内市、留萌市、美唄市、夕張市、岩見沢市、苫小牧市、室蘭市、士別市、名寄市、芦別市、赤平市、三笠市、滝川市、砂川市、江別市、千歳市、歌志内市、深川市、紋別市、富良野市、登別市、恵庭市、北広島市、石狩市、石狩支庁管内、網走支庁管内のうち紋別郡、上川支庁管内、宗谷支庁管内、日高支庁管内、胆振支庁管内（有珠郡及び虻田郡を除く。）、空知支庁管内、留萌支庁管内
XIII	北見市、帯広市、釧路市、網走市、根室市、根室支庁管内、釧路支庁管内、網走支庁管内（紋別郡を除く。）、十勝支庁管内
XIV	東京都のうち北緯 28 度から南であり、かつ東経 140 度 30 分から東であり東経 143 度から西である区域
XV	沖縄県のうち東経 126 度から東であり、かつ東経 130 度から西である区域
XVI	沖縄県のうち東経 126 度から西である区域
XVII	沖縄県のうち東経 130 度から東である区域
XVIII	東京都のうち北緯 28° から南であり、かつ東経 143° 30′ から西である区域
XIX	東京都のうち北緯 28° から南であり、かつ東経 143° から東である区域

1.2.2. ファイル形式

ファイル形式は、以下に示す5つの形式とする。交換するデータの種類により形式が異なる。

(1) Shape 形式

地図データの位置と形状に関する情報と、その属性情報を格納するためのデータ形式である。位置と形状に関する情報はシェープファイル(*.shp)に格納し、属性情報は dBASE フォーマットの属性ファイル(*.dbf)に格納する。シェープファイルと属性ファイルの各データは 1 対 1 に対応する。

(2) CSV 形式

データを「,」（カンマ）で区切り、並べたテキスト形式のファイルである。1つのデータには、複数の項目がある。1つのデータを1行で記述し、データ項目ごとに「,」（カンマ）で区切り並べる。1つのデータの終わりごとに改行コードが入り1行で示す。データが複数存在する場合、複数行で記述する。

(3) PNG 形式 (24Bit)

地図データとして画像データを扱うための地図画像ファイル形式である。表示縮尺ごとに複数ファイルに分割する。

(4) GIF 形式

地図データの形状に点を用いた場合、その地点をあらわすためのシンボルを画像データとして扱うためのファイル形式で、シンボライメージファイルと呼ぶものとする。

(5) ワールドファイル形式

ワールドファイル形式は、地図画像データファイル (PNG 形式) の位置情報を定義する。TEXT 形式のファイル仕様で拡張子は.pgw とする。

1.2.3. フォルダ構成

地図情報データベースのデータ交換フォルダ構成を以下に示す。

建築行政共用データベースシステム 道路情報登録閲覧システム データ交換仕様		4
--	--	---

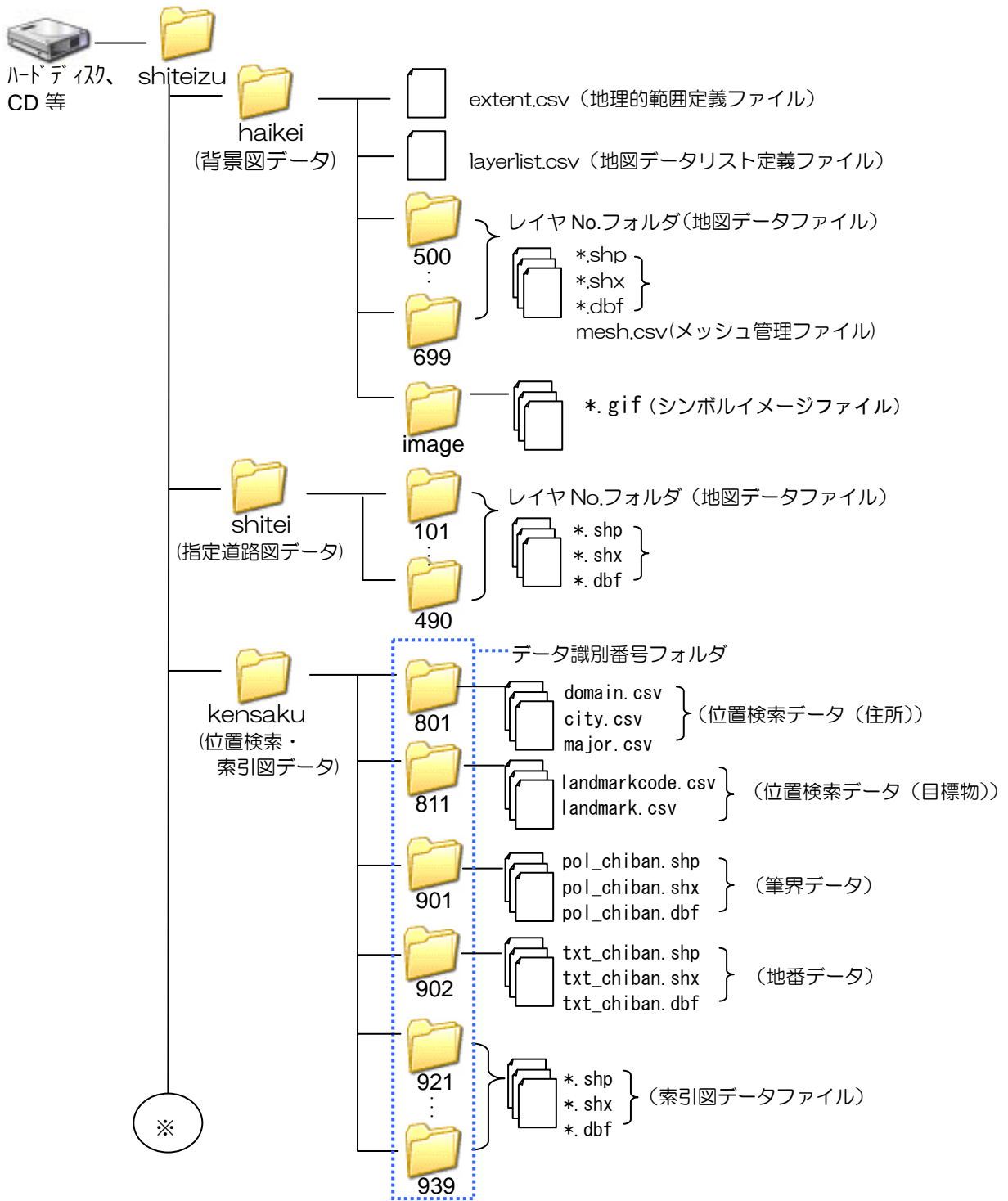


図 1-3-1 地図情報データベースのデータ交換フォルダ構成

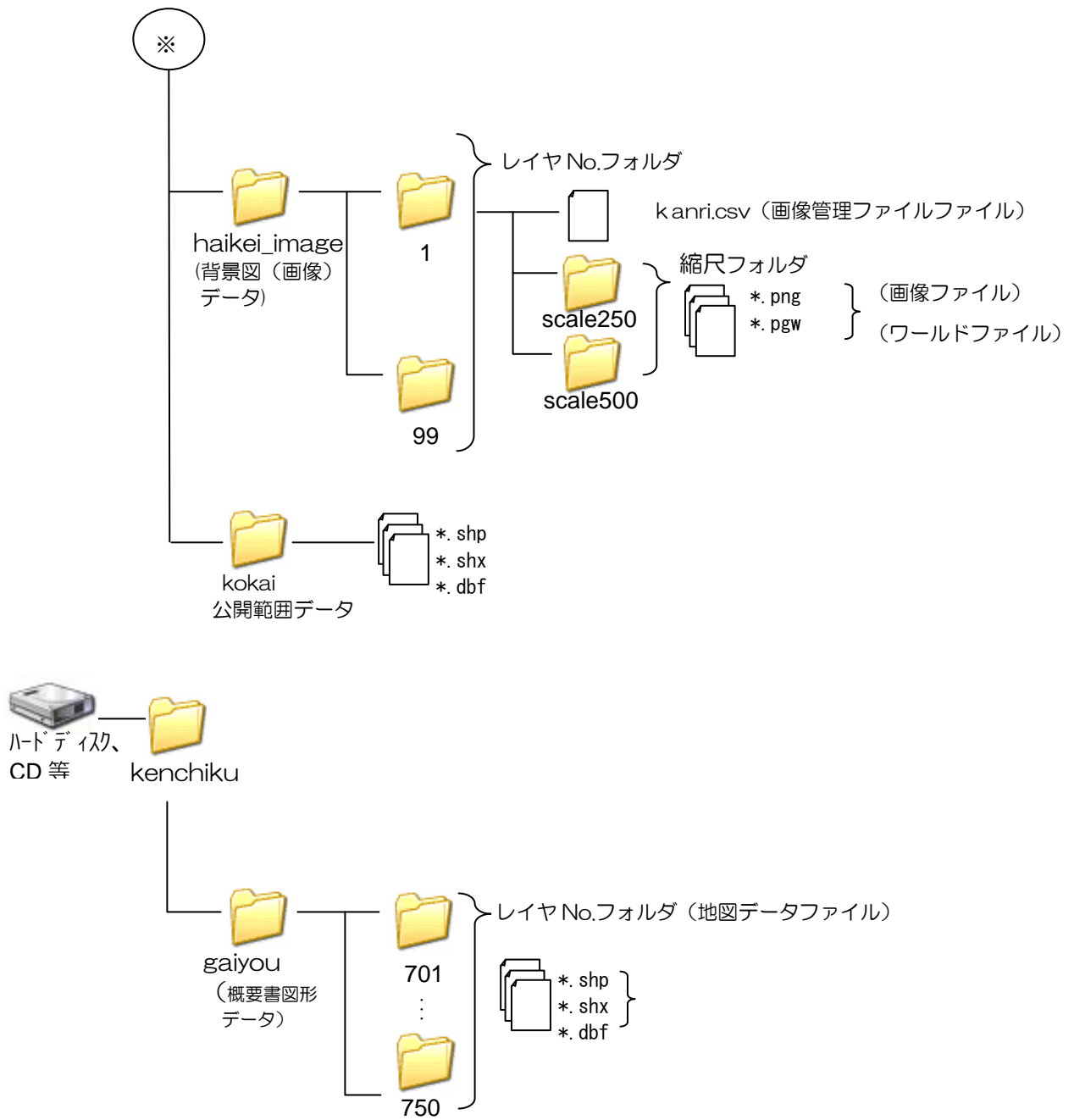


図 1-3-2 地図情報データベースのデータ交換フォルダ構成

1.2.4. 地図交換フォーマット（Shapeファイル）の仕様

地図交換フォーマットとして使用する Shape 形式のファイルの構造詳細については、以下を参照するものとする。

Shape ファイル技術情報 ESRI 社のホームページよりダウンロード可能

(http://www.esri.com/products/gis_data/shape/shapefile_j.pdf '08年11月時点)

1.2.5. Shapeファイルのファイル構成

Shape 形式のファイルは、以下に示すファイル形式で構成される。

表 1-2 Shape 形式のファイル構成

ファイル形式		内容
shape ファイル	*.shp	メインファイル（図形データ）
	*.shx	インデックスファイル
	*.dbf	属性ファイル(属性データは当データに埋め込む)

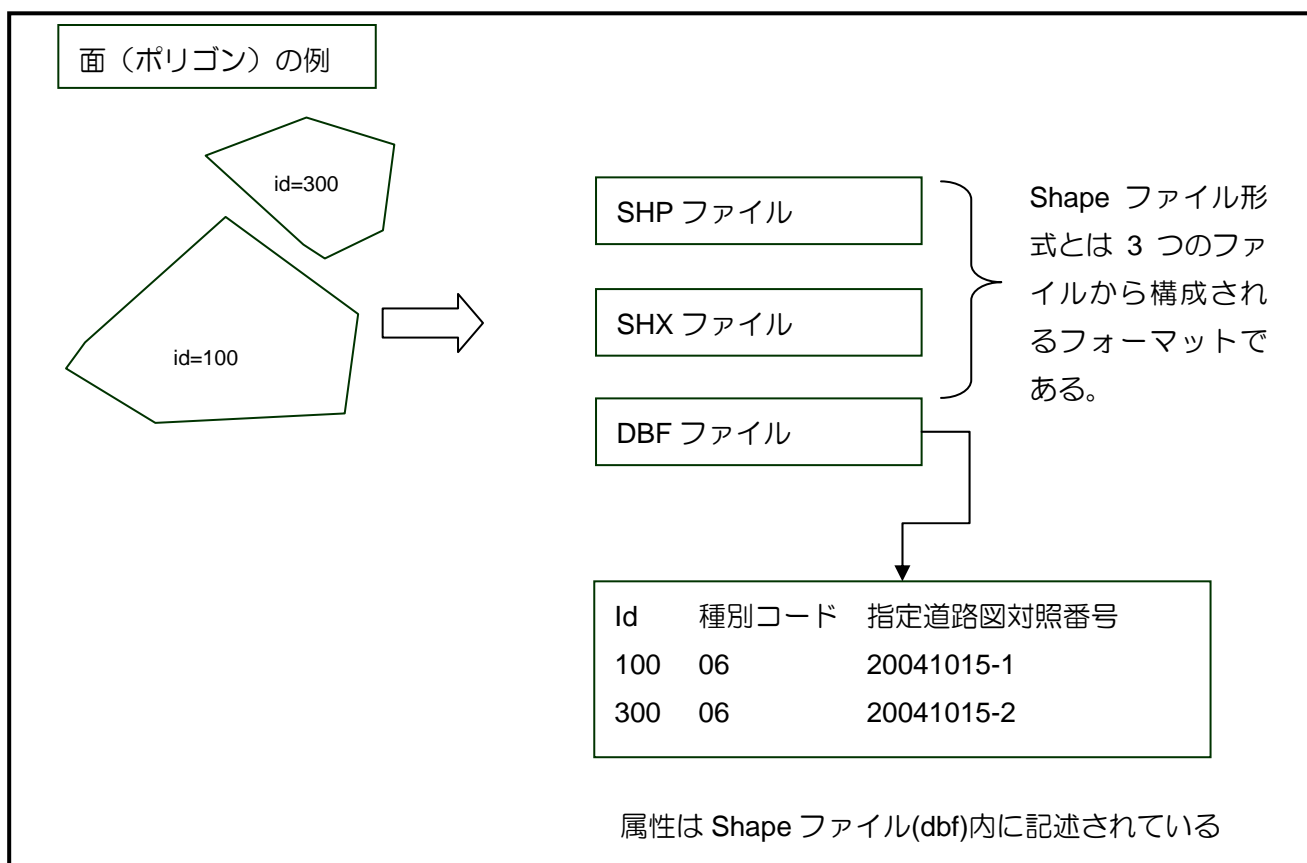


図 1-4 データ交換のファイル内容模式図

1.2.6. 文字コード

Shape ファイルの属性ファイル(*.dbf)の文字コードは、Shift-JIS とする。

1.2.7. 地図レイヤと属性の関係

Shape ファイルの仕様上、出力するレイヤは以下の条件を満たしている必要がある。

- ・ 1つの地図レイヤには、同じ図形種別と属性項目を作成すること。
- ・ 1つの図形に対して、複数の属性(レコード)が関連付けられていないこと。

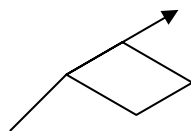
1.2.8. 線（ライン）の入力規則

線の入力時の制約事項を以下に示す。

【制約事項】

- ・ Shape のラインデータは、複数の線分（直線、折れ線）を1つの集まりにしたデータとして作成することができる。しかし、本データ交換仕様では、1つの直線または1つの折れ線ごとにラインデータを作成するものとする。
- ・ 以下に示す図形は作成しないこと。

(1) 一筆書きでないもの(その1)



(2) 一筆書きでないもの(その2)

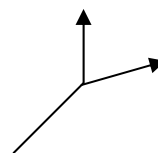


図 1-5 作成してはいけない図形の例

1.2.9. 面（ポリゴン）の入力規則

面の入力時の制約事項を以下に示す。

【制約事項】

- ・ 面の作成は、以下に示す Shape ファイルの仕様に従う。ただし、本データ仕様では1レコード・コンテンツ中に、中抜けがある場合を除き、複数のリングを作成しないこととする。
ポリゴンの定義（出展「シェープファイルの技術情報」ESRI 社より）

Polygon は 1 個または複数のリングで構成されます。ここでリングとは、4 個以上の Point を順につないだもので、自分自身に交差しない閉曲線のことを指します。Polygon ではいくつかのリングが入れ子になっていることがあります。リングを構成する頂点の順番、すなわちリングの向きによって、リングのどちら側を Polygon の内部とみなすかが決まります。頂点の順にリングを辿るとき、右側にある方を Polygon の内部と定義します。Polygon 内部の穴をあらわす場合、リングの向きは反時計回りになります。1 本のリングで構成される Polygon の場合には、リングの向きは常に時計回りになります。このリングのことを、Polygon のパートと呼びます。

1.2.10. 注記（文字列）の入力規則

注記は、Shape ファイルではそのままでは扱えないため、Shape ファイルの図形種別 Point と、属性ファイルである DBF ファイルのフィールドに表示角度と注記として表示する文字列を登録する。Shape ファイルに Point として登録する X,Y 座標は、文字列の左下の点とし、文字列を配置するための参照点となる。

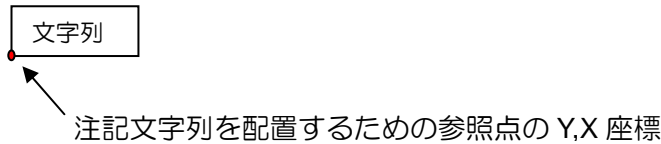


図 1-6 文字列を配置するための参照点

また、文字列を水平に配置する場合、DBF ファイルの ANGLE フィールドの表示角度に「0」を登録する。

文字列を傾斜させて配置する場合は、DBF ファイルの ANGLE フィールドに表示角度の値を登録する。表示角度の値は、上方向を X 軸、右方向 Y 軸とし、Y 軸を基準線とした文字列の配置線に対する反時計周りの角度で指定する。この場合、上方向を北とする。

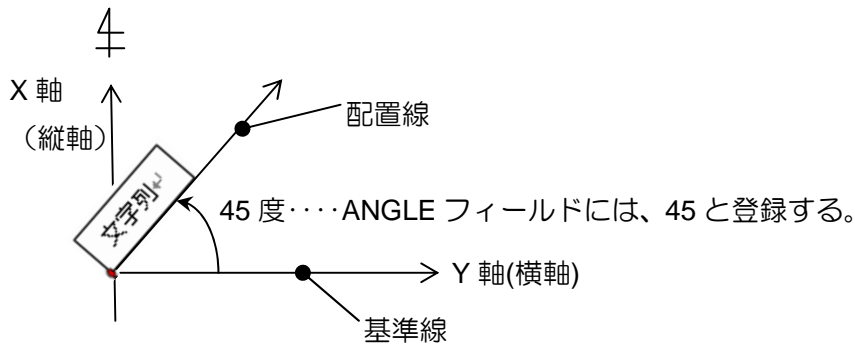


図 1-7 文字列の表示角度

1.3. 作成データの確認方法

本データ交換仕様で用いる Shape 形式のデータの構造を簡易に確認する方法を以下に示す。構造確認には ESRI 社の無料地図閲覧ソフトである ArcExplorer を利用することができる。

1.3.1. ArcExplorerのダウンロードとインストール

ArcExplorer のダウンロードとインストールは、以下の ESRI 社のサイトを参照し、実施する。

(<http://www.esri.com/products/arcexplorer/> '08 年 11 月時点)

1.3.2. ArcExplorerを使ったShapeファイル構造確認方法

(注：背景図など属性がないデータは、ArcExplorer では参照できません。)

- 1) アプリケーションの起動方法は、タスクバーの[スタート] -[すべてのプログラム] -[ArcGIS]-[ArcExplorer9.2]を選択する。
- 2) メニュー-[レイヤ]-[レイヤの追加]で表示されるデータフォルダを選択するためのカタログウィンドウが表示される。

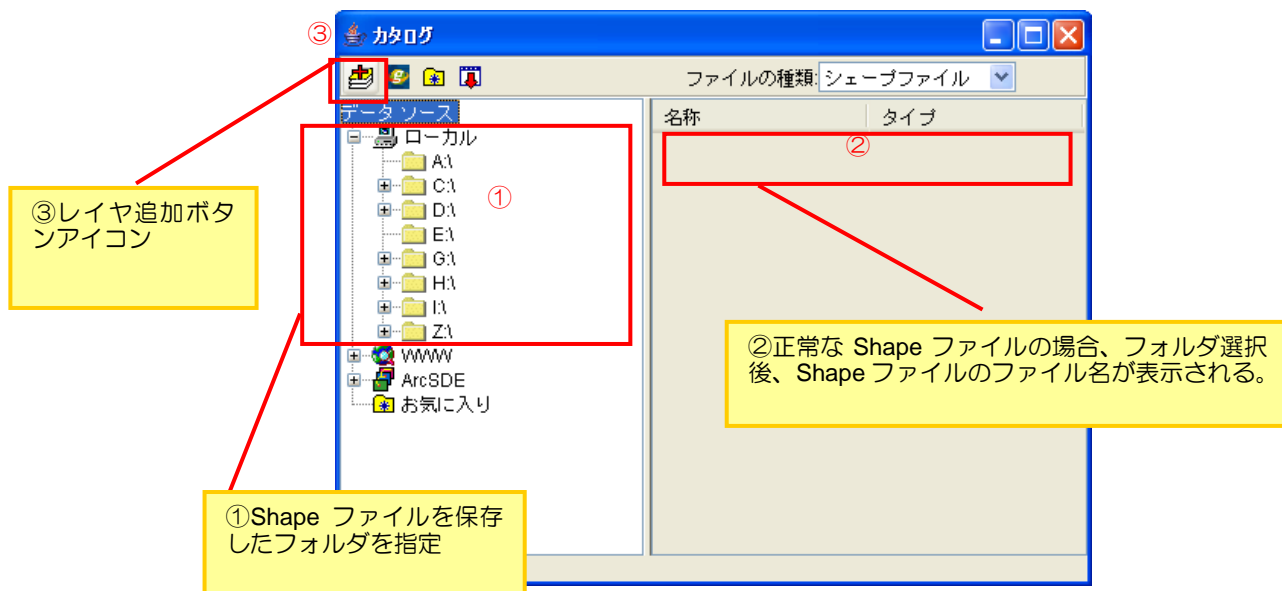


図 1-8 カタログウィンドウ

- 3) このウィンドウの左側の①で Shape 形式のファイル (.shp, .shx, dbf) を保存したフォルダを選択する。
- 4) フォルダツリーの右側の②にファイル名が表示される。
- 5) ファイル名を選択した状態で、③のツールボタンの<レイヤ追加>ボタンアイコンをクリックすると ArcExplorer のメインウィンドウの右側の欄にレイヤが追加される。レイヤを追加する場合、この5) の作業を繰り返す。

Shape ファイルの構造に問題がある場合、以下に示す「この操作はサポートされていません:」とメッセージウィンドウが1度だけ表示され、右の欄にファイル名が表示されない。その場合は、Shape ファイルの構造に問題がある可能性があるため Shape ファイルを確認し、修正する。

- 6) カタログウインドウの右上の<X>ボタンで閉じる。
- 7) ArcExplorer のメインウインドウの左側の欄にレイヤのチェックボックスにチェックをするとShapeファイルとして構造に問題ない場合、右側の地図表示画面に地図が表示される。
- 8) ArcExplorer のメインウインドウの左側の欄にレイヤ名を選択した状態で、メニューの[ツール]-[個別属性表示]を選択し、地図をクリックすると、クリック地点の属性が表示される。
- 9) データ交換仕様に従った属性値が作成されているか確認することが可能である。
- 10) アプリケーションの終了方法は、メニュー-[ファイル]-[終了]を選択する。

第2章 背景図データ交換仕様

2.1. 対象範囲

本項では、本システムで管理する背景図データと、外部地図ファイル（Shape ファイル）等の論理的なデータ構造の変換仕様について記述する。本システムで管理している地図情報の中で、背景図データとして交換対象となる範囲は、以下の通りである。

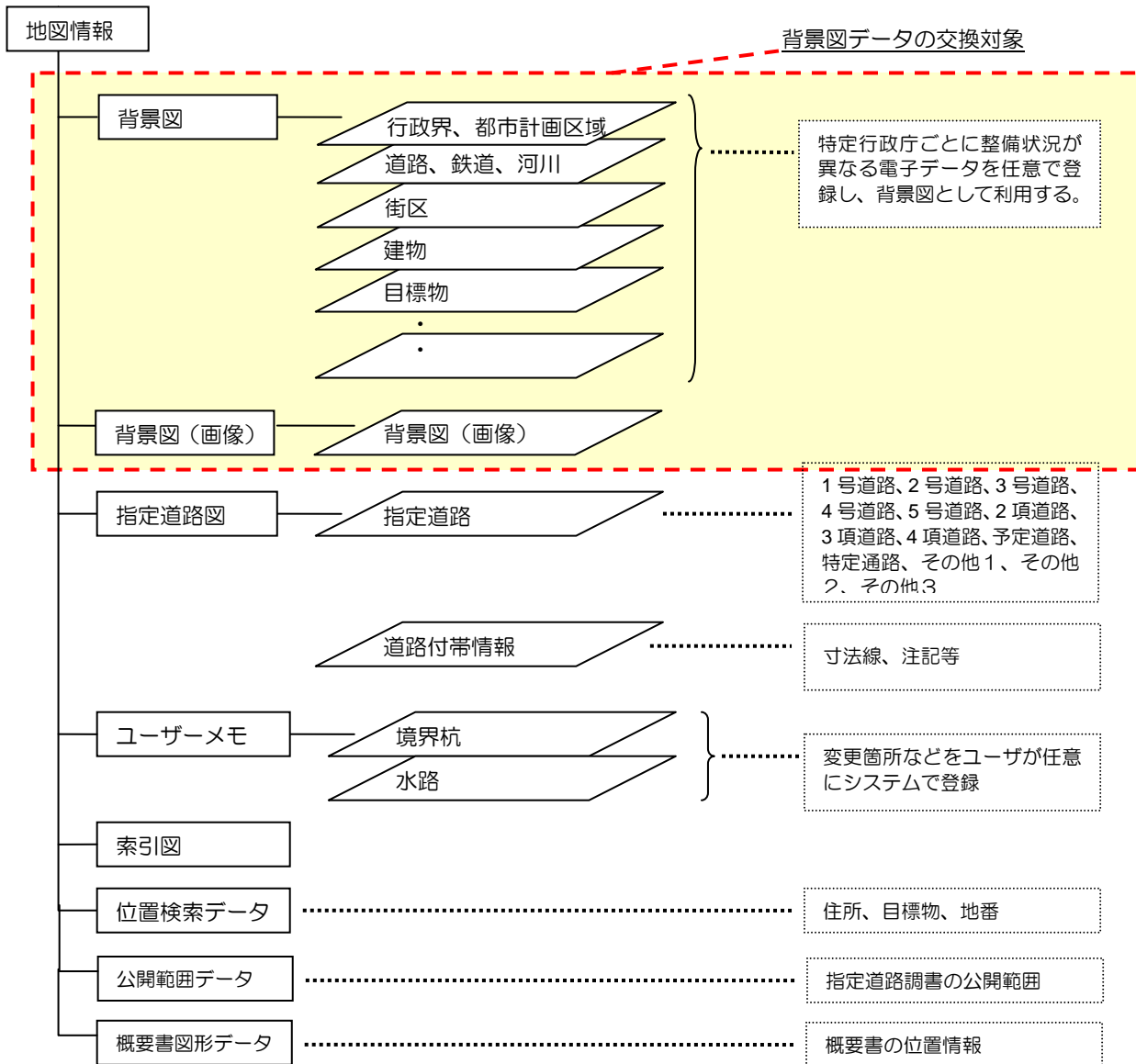


図 2-1 背景図データとして交換対象となる範囲

2.2. 交換ファイル仕様

本システムへの背景図データの登録は、以下に示す交換ファイルを用いて行う。交換ファイルは、主に7つに分類される。

表 2-1 データ交換ファイル

項番	交換ファイル名称	形式	ファイル名	備考
1	地理的範囲定義ファイル	CSV 形式	extent.csv	
2	地図データリスト定義ファイル	CSV 形式	layerlist.csv	
3	地図データファイル	Shape 形式	*.shp *.shx *.dbf	Shape ファイルはメッシュ別に作成するため複数となる。メッシュ別に作成したファイルはレイヤ毎にフォルダで分けて管理する（詳細は後述）。
4	メッシュ管理ファイル	CSV 形式	mesh.csv	Shape のファイル名とメッシュの最小最大座標の対応関係を示すデータを作成する。
5	シンボルイメージファイル	GIF 形式	*.gif	地図データファイルの形式で、点を用いた場合、その地点をあらわすシンボルの画像ファイルを作成する（詳細は 2.2.5 参照）。
6	画像管理ファイル	CSV 形式	kanri.csv	背景図（画像）の制御情報、縮尺情報、レイヤ番号、表示順を示すデータを作成する。
7	背景図（画像）ファイル	PNG 形式 ワールドファイル形式	*.png *.pgw	PNG（24Bit）ファイルは縮尺別に作成するため複数となる。またメッシュ別に作成したファイルは縮尺毎にフォルダで分けて管理する。 ワールドファイルは、画像データファイルの位置情報を定義する。（詳細は 2.2.6 参照）

2.2.1. 地理的範囲定義ファイルの仕様

地理的範囲定義ファイルは、本システムが管理する特定行政庁の地理的範囲を定義するためのファイルである。ファイル仕様は、以下に示す CSV 形式のデータとする。

表 2-2 地理的範囲定義ファイル（extent.csv）の仕様

項番	データ項目	内容
1	特定行政庁名	特定行政庁の名称を入力する。
2	市町村コード	市町村コードを登録する。特定行政庁が都道府県の場合、市町村コードの先頭 2 桁とする。特定行政庁が市区町村の場合、市町村コード 5 桁とする。
3	平面直角座標の系番号	特定行政庁が該当する日本測地系 2000 の平面直角座標系（公共座標系、19 座標系）の系番号を登録する。1～19 の値を 1 つ指定する。
4	最南端の平面直角座	単位はmとし、小数以下第三位までとする。

	標X座標（平面直角座標の縦軸の座標）	
5	最西端の平面直角座標Y座標（平面直角座標の横軸の座標）	単位はmとし、小数以下第三位までとする。
6	最北端の平面直角座標X座標（平面直角座標の縦軸の座標）	単位はmとし、小数以下第三位までとする。
7	最東端の平面直角座標Y座標（平面直角座標の横軸の座標）	単位はmとし、小数以下第三位までとする。

【制約事項】

- ・ 項番 2～7 のデータ項目の値は、半角（1 バイト）で入力する。

データの作成例を以下に示す。特定行政庁名、市町村コード（5 桁）、平面直角座標系を 9 系とし、各平面直角座標を入力した例である。

丸川市,14123,9,-1234.000,-1234.567,21234.158,17235.854

2.2.2. 地図データリスト定義ファイルの仕様

地図データリスト定義ファイルは、データ交換の対象とする背景図データファイルの一覧を定義するためのファイルである。ファイル仕様は、CSV 形式のデータとする。

交換対象データの一覧には、以下のデータを登録する。なおレイヤ数分だけ、番号 1～5 のデータ項目を繰り返し入力することとする。

表 2-3 地図データリスト定義ファイル（layerlist.csv）の仕様

項番	データ項目	内容
1	レイヤ番号	500 番～699 番の 3 桁の整数で、任意の番号とする。
2	名称（レイヤ種別）	レイヤを説明する名称とする。（日本語）
3	図形種別	図形種別に対応する以下に示す 1～4 のコードを入力する。 1：点—Point 2：線—PolyLine 3：面—Polygon 4：注記—Point <制約事項> 1 つのレイヤに複数の図形種別を登録することはできなものとす。 例 図形種別が点の場合、1 と入力する。
4	地図表示最大縮尺	地図表示最大縮尺の分母の値とする。250～5000 の範囲で値を設定する。 例 1/250～1/5000 で表示したい場合、250 を設定する。

5	地図表示最小縮尺	地図表示最小縮尺の分母の値とする。250～5000 の範囲で値を設定する。 例 1/250～1/5000 で表示したい場合、5000 を設定する。
---	----------	---

※ 項番 4 の地図表示最大縮尺と項番 5 の地図表示最小縮尺を組み合わせると、本システムではスケールフィルタの値に用いる。スケールフィルタとは、GIS でレイヤの表示/非表示を縮尺で切り替える機能である。システムでは、1/250、1/500、1/1000、1/2500、1/5000 の 5 段階の縮尺を切り替える機能となっている。

【制約事項】

- ・ レイヤ番号は重複してはならない。
- ・ 1 つのレイヤには 1 つの図形種別のみ定義可能とする。

以下に「河川：線」「道路：面」「街区：線」「建物：面」の縮尺 1/250～1/5000 で表示する例を示す。

500,河川,2,250,5000
501,道路,3,250,5000
502,街区,2,250,5000
503,建物,3,250,5000

2.2.3. 地図データファイルの仕様

地図データファイルは、共通仕様で示したとおり、Shape 形式のファイルとし、構成する合計 3 ファイルを 1 セットとしたフォーマットとする。また背景図の場合は、後述するメッシュデータ管理ファイル (mesh.csv) を整備する必要がある。

2.2.3.1. 図形種別

Shape ファイル内で、指定可能とする図形種別 (形状) は、「Point (点)」、「PolyLine (線)」、「Polygon (面)」とする。なお、Shape ファイルの制約として、1 つの Shape ファイル内では、Null Shape を除いてすべて同じ図形種別でなければならない。

注記を作成する場合は、図形種別に「Point (点)」を使用し、表示対象となる文字列を DBF ファイルの属性に登録する。なお、注記の詳細仕様は後述する。

【制約事項】

- ・ 1 つのデータには、折れ線を 1 つのみ作成すること。1 つのデータ中に複数の折れ線を作成しないこと。
- ・ 中抜けがある面の場合を除き、2 つ以上の面を用いないこと。
- ・ 点のシンボルイメージは画像データとして扱い、後述するシンボルイメージフォルダにファイルを配置する。本システムに登録後、管理ツールの機能を用いて各種シンボルイ

メージファイルの割り当てを可能とする。

2.2.3.2. 測地系と座標系

対象とする測地系は日本測地系 2000 とし、座標系は平面直角座標系とする。

2.2.3.3. 属性情報

Shape ファイルには、以下の属性が DBF ファイルにより登録されているものとする。

(1) 図形種別が点、線、面の場合

背景図データは属性を持たないが DBF ファイルを作成すること。

(2) 注記の場合

以下に示す属性を持った DBF ファイルを作成すること。

表 2-4 注記の属性仕様

名称	フィールド名	データの型	データについて
テキストの表示角度	ANGLE	文字列	0~359 度の角度の値を 1 バイト文字で登録する。
テキスト	TEXT	文字列	注記として扱う文字列を登録する。幅員の値もこのフィールドを使用して、値を登録する。

※注記の作成方法については、1.2.10 を参照する。

2.2.3.4. ファイル命名規則

ファイル命名規則は、以下に示すとおりとする。本システムへデータをインポートするときに一部の情報はファイル名から情報を取得するため、以下に示すファイル命名規則に従いファイルを作成する。

ファイル命名規則：(図形識別子) +_+ *** (任意) +.拡張子

ファイル名の***の箇所には、複数ファイルが存在する場合に管理するための文字列を任意に付与してよい。

表 2-5 背景図データファイル仕様一覧

項番	名称 (レイヤ種別)	図形種別	ファイル名に付与する図形識別子 (3 バイト)	ファイル名の例	備考
1	背景 (点)	Point	pnt	pnt_***.shp pnt_***.shx pnt_***.dbf mesh.csv	対応するレイヤ No フォルダに分けてファイルを作成すること。

2	背景（線）	PolyLine	lin	lin_***.shp lin_***.shx lin_***.dbf mesh.csv	対応するレイヤNoフォルダに分けてファイルを作成すること。
3	背景（面）	Polygon	pol	pol_***.shp pol_***.shx pol_***.dbf mesh.csv	対応するレイヤNoフォルダに分けてファイルを作成すること。
4	背景（注記）	Point	txt	txt_***.shp txt_***.shx txt_***.dbf mesh.csv	対応するレイヤNoフォルダに分けてファイルを作成すること。

【制約事項】

- ・ 対応するレイヤNoフォルダに分けてファイルを作成すること。
- ・ メッシュに分けてデータを整備するため、メッシュ定義ファイル（mesh.csv）をレイヤNoフォルダに格納すること。

2.2.4. メッシュ管理ファイルの仕様

地図データをメッシュ単位に分割して整備するには、分割対象レイヤのメッシュ管理ファイルを作成する必要がある。メッシュ管理ファイルは、地図データファイルがどのメッシュに含まれるかの対応関係を座標で示したものである。メッシュは、各平面直角座標の原点から、250mごと（250m×250m）に分割したものとす。

ファイルの形式はCSV形式とする。交換対象データ一覧には、以下のデータを登録するものとする。メッシュの数だけ、項番1～6のデータ項目を繰り返し入力する。

表 2-6 メッシュ管理ファイル（mesh.csv）の仕様

項番	データ項目	内容
1	レイヤNo	500番～699番の3桁の整数で、任意の番号とする。1つのmesh.csvファイルの中で異なるレイヤNoを付与してはならない。
2	メッシュの南端の平面直角座標系X座標 （平面直角座標の縦軸の座標）	単位はmとし、250(m)の倍数とする。
3	メッシュの西端の平面直角座標系Y座標 （平面直角座標の横軸の座標）	単位はmとし、250(m)の倍数とする。
4	メッシュの北端の平面直角座標系X座標 （平面直角座標の縦軸の座標）	単位はmとし、250(m)の倍数とする。
5	メッシュの東端の平面直角座標系Y座標 （平面直角座標の横軸の座標）	単位はmとし、250(m)の倍数とする。
6	地図データファイル名	地図データファイル名を記述する。地図データファイルを構成する3種類のファイルの1つである、拡張子.shpのみを記述する。

以下に、メッシュ管理ファイル（mesh.csv）の作成例を示す。

```
500,1000.000,1000.000,1250.000,1250.000,pol_11.shp
500,1250.000,1000.000,1500.000,1250.000,pol_21.shp
500,1500.000,1000.000,1750.000,1250.000,pol_31.shp
500,1750.000,1000.000,2000.000,1250.000,pol_41.shp
```

※mesh.csv に入力するデータの登録順に制約はない。

2.2.5. シンボルイメージファイルの仕様

地図データの形状に点（Point）を使用していた場合、その位置が視覚的に把握しやすいようにシンボルを表示する。その際に必要となるファイルをシンボルイメージファイルと呼ぶ。シンボルイメージファイルの仕様は以下のとおりである。

表 2-7 シンボルイメージファイル仕様

項番	項目	仕様
1	ファイル形式	GIF
2	サイズ	最大サイズ 幅 (w) : 32 ピクセル 高さ (h) : 32 ピクセル 推奨サイズ 幅 (w) : 16 ピクセル 高さ (h) : 16 ピクセル
3	色数	任意。ただし、GIF ファイルの制限に依存する。
4	ファイル名	‘レイヤNo’ +.gif 例 505.gif

2.2.6. 画像管理ファイルの仕様

画像管理ファイルは、データ交換の対象とする背景図（画像）ファイルの一覧を定義するためのファイルである。ファイル仕様は、CSV 形式のデータとする。

交換対象データの一覧には、以下のデータを登録する。なお 3 行目以降はレイヤ数分だけ、データ項目を繰り返し入力することとする。

表 2-8 画像管理ファイル（kanri.csv）の仕様一覧

1 行目：地理的範囲定義

項番	項目	仕様
1	市町村コード	市町村コードを登録する。特定行政庁が都道府県の場合、市町村コードの先頭 2 桁とする。特定行政庁が市区町村の場合、市町村コード 5 桁とする。
2	最南端の平面直角座標 X 座標（平面直角座標の縦軸の座標）	単位は m とし、小数以下第三位までとする。
3	最西端の平面直角座標 Y 座標（平面直角座標の横軸の座標）	単位は m とし、小数以下第三位までとする。
4	最北端の平面直角座標 X 座標（平面直角座標の縦軸の座標）	単位は m とし、小数以下第三位までとする。
5	最東端の平面直角座標 Y 座標（平面直角座標の横軸の座標）	単位は m とし、小数以下第三位までとする。

※範囲の定義は、特定行政庁の全域を示し、地図画像ファイルの整備範囲に依存しないものとする。

2 行目：レイヤ共通情報

項番	項目	仕様
1	制御情報	背景図（画像）のレイヤ(グループ)名称
2	表示指定	表示、非表示設定。1:表示、0:非表示。
3	レイヤ番号	背景図（画像）のレイヤ番号（1～99）
4	表示順	背景図（画像）の表示順（最下層は1）

3 行目以降：レイヤ個別情報

項番	項目	仕様
5	縮尺情報（最低）	インポートする背景図（画像）の表示縮尺の分母（250、500、1000、2500、5000）の最低値 （注：上から昇順に記載してください）
6	縮尺情報（最高）	インポートする背景図（画像）の表示縮尺の分母（250、500、1000、2500、5000）の最高値

例 1 5段階の表示縮尺に対して、4つの縮尺区分で画像データを設定する例

14130, -43100, -25500, -44100, -24500 ○○台帳図, 1, 1, 1 250, 500 1000, 1000 2500, 2500 5000, 5000	縮尺 1/250 で位置を特定できる解像度を持った地図画像データの整備は困難であり、整備したとしてもファイル数、容量が膨大になる。よって、ここでは表示縮尺 1/500 用に加工した地図画像データを用い、縮尺 1/250～1/500 で表示する設定とした。
	縮尺 1/1000、縮尺 1/2500、縮尺 1/5000 は、それぞれの縮尺に対応する地図画像データを用意して設定した例
	この例では後述する「縮尺フォルダ」は、以下のとおりとなる。 ¥scale250 ←注：縮尺 1/500 のデータを登録する。 ¥scale1000 ¥scale2500 ¥scale5000

例 2 航空写真データの設定例

14130, -43100, -25500, -44100, -24500 航空写真, 1, 1, 1 250, 1000 2500, 5000	縮尺 1/250～縮尺 1/1000 は、表示縮尺 1/500 用に加工した航空写真データを使用するものとした。 また、縮尺 1/2500～縮尺 1/5000 は、表示縮尺 1/2500 用に加工した航空写真データを使用するものとした。
	この例では後述する「縮尺フォルダ」は、以下のとおりとなる。 ¥scale250 ¥scale2500

2.2.7. 背景図（画像）ファイルの仕様

背景図（画像）ファイルの仕様は、PNG 形式（24Bit）とワールドファイル形式の合計2ファイルを1セットとして扱うものとする。

ワールドファイル形式は、データ交換の対象とする画像データファイルの位置情報を定義する。ファイル仕様は、TEXT 形式のデータで拡張子を.pgw とする。

表 2-9 ワールドファイル仕様一覧

項番	項目	仕様
1	X 方向のピクセルスケール	X 方向の 1 ピクセルごとのスケール
2	X 方向の回転角度	X 方向の回転角度 (0.0 固定)
3	Y 方向の回転角度	Y 方向の回転角度 (0.0 固定)
4	Y 方向のピクセルスケール	Y 方向の 1 ピクセルごとのスケール(値がマイナス)
5	画像ファイルの左上中心座標 (X)	画像ファイルの左上ピクセル中心の座標 (X)
6	画像ファイルの左上中心座標 (Y)	画像ファイルの左上ピクセル中心の座標 (Y)

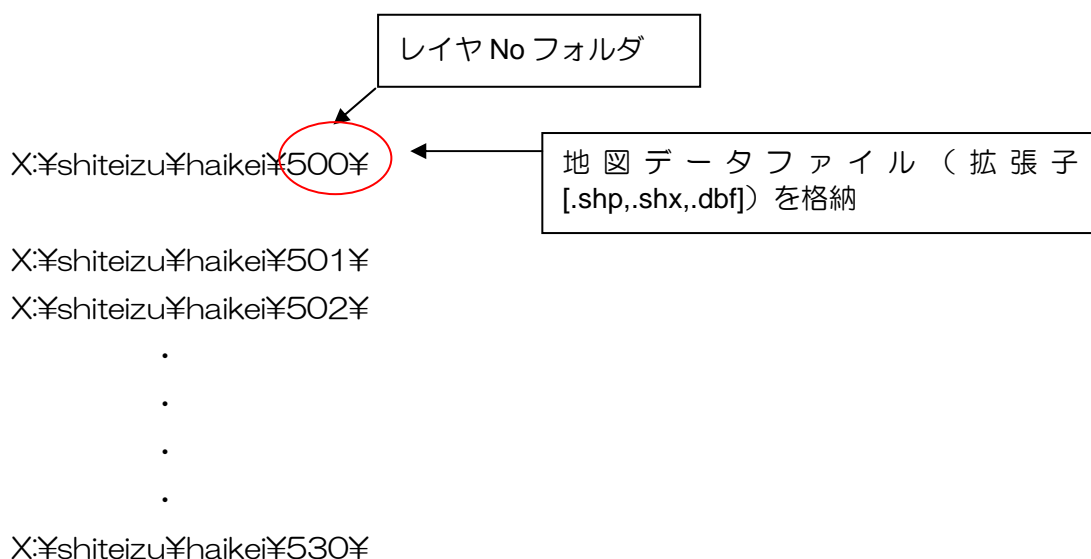
背景図（画像）ファイルを整備する場合、データ量に配慮してメッシュ単位に分割してデータを整備する必要がある。具体的には背景図（画像）ファイルの画像サイズを 1510×1510 ピクセルにて作成し、縮尺ごとに分割した背景図（画像）ファイルを整備する。

例 ピクセルスケールの算出例

(注：以下の算出例の X 座標、Y 座標は、横軸を X、縦軸を Y として解説)

<p>・画像サイズ 幅：1510 ピクセル、 高さ：1510 ピクセル</p> <p>・画像データの四隅の座標 左 X 座標： -25500、右 X 座標： -24500 上 Y 座標： -43100、下 Y 座標： -44100</p> <p>X 方向のピクセルスケール 画像データの幅 = 右 X 座標 - 左 X 座標 = (-24500) - (-25500) = 1000 X 方向のピクセルスケール = 画像データの幅 / 画像サイズ X = 1000 / 1510 = 0.662251655</p> <p>Y 方向のピクセルスケール</p>
--

例



(4) メッシュ管理ファイル

地図データファイルを格納したレイヤ番号のフォルダに対応するメッシュ管理ファイル (mesh.csv) を格納する。

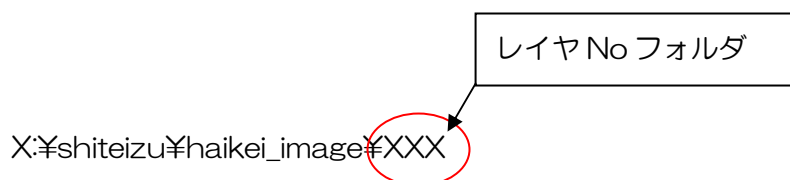
(5) シンボルイメージファイル

シンボルイメージファイルは、以下のフォルダに所定のファイル名を付与したファイルを格納する。

X:\shiteizu\haikei\image

(6) 画像管理ファイル

画像管理ファイル(Kanri.csv)は haikei_image フォルダの配下にレイヤ No フォルダを作成し、そこに格納する。

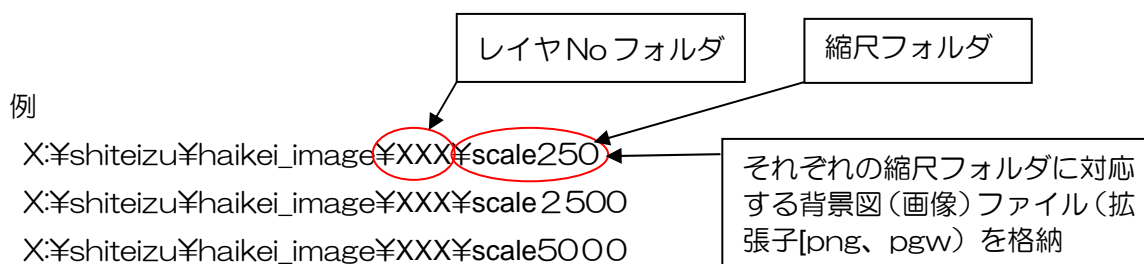


(7) 背景図（画像）ファイル

拡張子 (*.png、*.pgw) の背景図（画像）データファイルは haikei_image フォルダの

配下にレイヤ No フォルダを作成し、さらにレイヤ No フォルダの配下に縮尺フォルダを作成し、そこに格納する。縮尺フォルダ名は「scale+縮尺情報」という名前にする。

※ 縮尺情報は、表 2-9 の項番 5 の値と対応する。



2.3. 利用可能なデータについて

背景図データとして利用可能なデータの例を以下に示す。なお、データごとにファイル形式が異なるため、本システムで背景図として利用するには、本データ交換仕様にもとづき交換する必要がある。

表 2-10 背景図データとして利用可能なデータ一覧

項番	データ名・データ形式	データの概要
1	都市計画基本図 (DM データ) データ形式：国土交通省公共測量 作業規程に準拠した形式	縮尺 1/2500 のベクトルデータである。公共測量作業規程にもとづき、主に都市計画区域を対象に作成されており、境界、道路、鉄道、建物、公共施設、水部、構田、注記などでの項目で構成される。更新サイクルは、概ね 5 年である。
2	基盤地図情報 (縮尺レベル 2,500 以上) データ形式：XML	縮尺 1/2500 相当以上のベクトルデータである。国土交通省令で定めるものの位置情報として、行政区画の境界線及び代表点、道路縁、軌道の中心線、標高点、海岸線、水涯線、建築物の外周線、市町村の町若しくは字の境界線及び代表点で構成されている。平成 21 年度中に全国の都市計画区域を整備する予定であるが、平成 20 年度内には未整備の範囲もある。
3	数値地図 2500(空間データ基盤) データ形式：XML	縮尺 1/2500 相当のベクトルデータである。都市計画基本図がベースとなっており、行政区域、道路中心線、街区、鉄道・駅、水部、注記などの項目で構成される。全国の都市計画区域を対象に整備されているが、地域によっては整備項目が限定されていたり、未整備のケースもある。
4	商用住宅地図データ データ形式：独自フォーマット	主なレイヤとして行政界、道路、鉄道、河川、水路、街区、建物、注記等の項目で構成される。商品によりデータ項目やデータの位置正確度、データ形式、更新サイクル、価格、ライセンス等が異なる。特に、ライセンスにもとづく利用範囲に注意する必要がある。

2.4. 作成にあたっての留意事項

2.4.1. 情報の縮尺

背景図データは、主に指定道路図や指定道路調書(第二面)の背景図として利用されることから、その選定にあたっては適切な鮮度・精度ならびに権利関係に配慮すること。

2.4.2. 情報の単位

背景図データを整備する場合は、データ量に配慮し、メッシュ単位に分割してデータを整備する必要がある。具体的には、メッシュ管理ファイルを作成し、メッシュごとに分割した地図データファイルを整備する。

第3章 指定道路図データ交換仕様

3.1. 対象範囲

本項では、本システムで管理する指定道路図データと、外部地図ファイル（Shape ファイル）の論理的なデータ構造の変換仕様について記述する。なお、本システムで管理している地図情報の中で、指定道路図データの交換対象となる範囲は、以下の通りである。

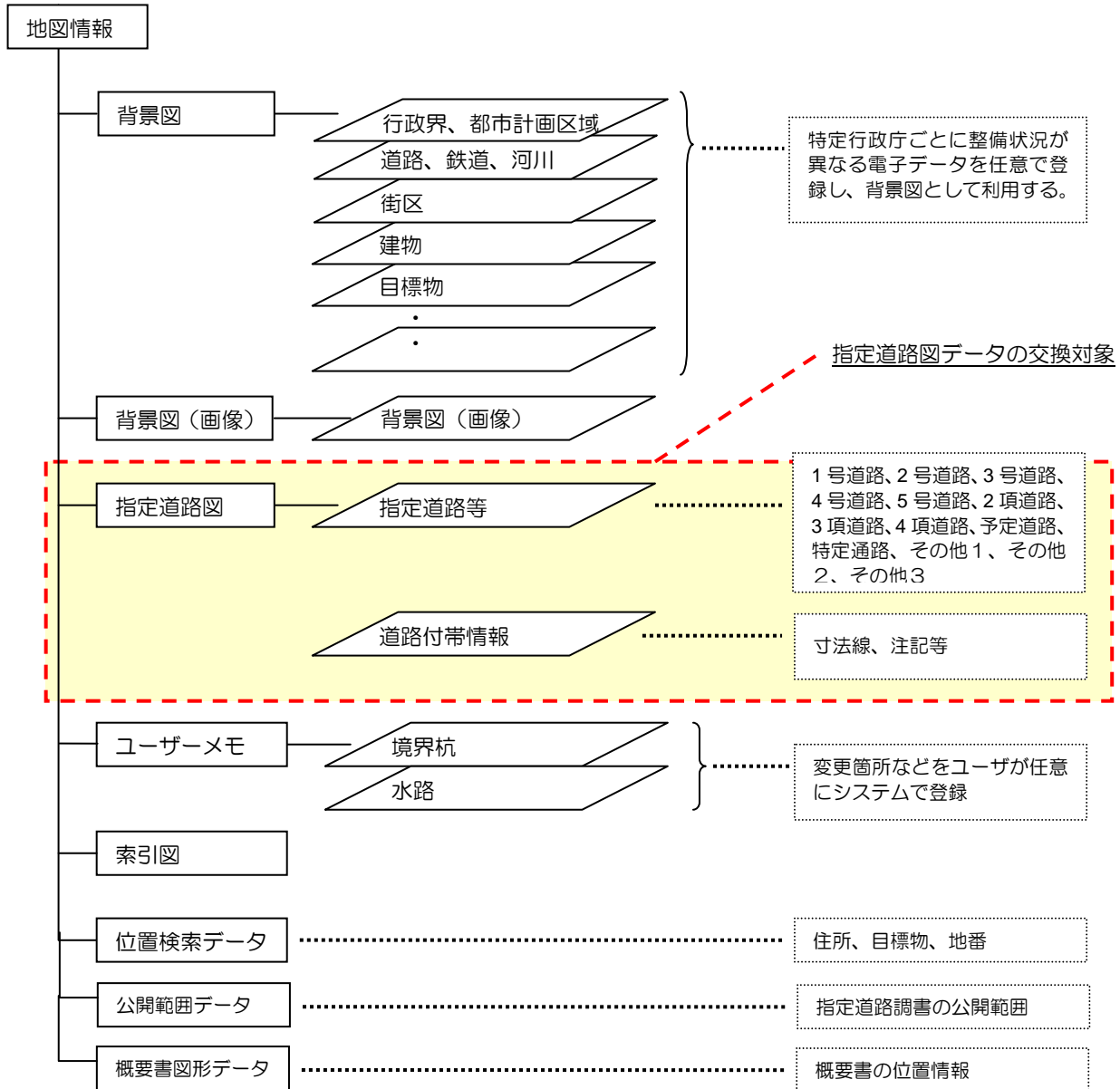


図 3-1 指定道路図データとして交換対象となる範囲

3.2. 交換ファイル仕様

交換ファイルは、Shape 形式のファイルを用いる。Shape ファイルは、以下に示す図形種別と対応するレイヤNo のフォルダに格納する。

3.2.1. 指定道路等の仕様

(1) 図形情報

表 3-1 指定道路等の図形種別とレイヤNo の対応

名称（レイヤ種別）	図形種別	レイヤNo	レイヤ登録情報
指定道路等（面）	Polygon	101	1号道路
		102	2号道路
		103	3号道路
		104	4号道路
		105	5号道路
		106	2項道路
		107	3項道路
		108	4項道路
		109	予定道路
		110	特定通路
		190	その他1
		191	その他2
		192	その他3
指定道路等（線）	PolyLine	201	1号道路
		202	2号道路
		203	3号道路
		204	4号道路
		205	5号道路
		206	2項道路
		207	3項道路
		208	4項道路
		209	予定道路
		210	特定通路
		290	その他1
		291	その他2
		292	その他3

【制約事項】

- ・ 指定道路等の形状は、面または線で整備することができる。
- ・ 本システムでは、調書第二面を2つの方法でデータ管理することができる。
 - 1) システムで指定道路図から生成し、調書第二面として管理する。
 - 2) ユーザが調書第二面として任意のファイル形式で作成したものを管理する。
 - 3) 1)のシステムで指定道路図から生成する場合、2項道路および3項道路のみなし境

界線を含む面で作成することが望ましい。

2 項道路および 3 項道路をみなし境界線を含まない面として作成した場合や、線として作成した場合、本システムの調書第二面作成機能を利用し、適切な位置図を作成するためには、道路付帯情報として、みなし境界線を整備することが必要である。

(2)属性情報

表 3-2 指定道路等の属性仕様

フィールド名称	フィールド名	データの型	データのサンプル
道路種別コード	KIND	文字型	以下に示す 2 桁のコードとする。”:” 以降にコードの意味を示す。 01:1 号道路 02:2 号道路 03:3 号道路 04:4 号道路 05:5 号道路 06:2 項道路 07:3 項道路 08:4 項道路 09:予定道路 10:特定通路 90:その他 1 91:その他 2 92:その他 3
指定道路図対照番号	NO	文字型 (32 バイト以内)	・指定道路図対照番号を登録する。 例 20071010-1 ・登録文字種の制限 登録可能な文字列は、32 バイトまでとし、半角英数・記号・カタカナ、全角ひらがな・カタカナ・漢字・英数・記号とする。ただし、全角スペースと半角スペースは、登録不可とする。

【補足事項】

本システムは指定道路調書と指定道路図の”道路種別コード”と”指定道路図対照番号”をキーとして自動的に紐付けを行う機能がある。この機能を利用するには、「第 5 章 指定道路調書データ交換仕様」にもとづき作成されたデータと、指定道路図データ交換仕様にもとづき作成されたデータ間で、”道路種別コード”と”指定道路図対照番号”の整合がとれた状態で整備する必要がある。それぞれの道路の種類ごとに指定道路図対照番号が重複しないようにする。

3.2.2. 道路付帯情報の仕様

道路付帯情報の形状は線、点、注記の3種類のデータに分類される。

3.2.2.1. 道路付帯情報（線）の仕様

(1) 図形情報

表 3-3 道路付帯情報（線）の図形とレイヤ No の対応

名称（レイヤ種別）	図形種別	レイヤ No	レイヤ登録情報	作成優先度
道路付帯情報（線）	PolyLine	301	みなし境界線	○
		302	指定道路の幅員線（両端矢印あり）	○
		303	現況道路の幅員線（両端矢印あり）	
		304	道路中心線	
		305	引き出し線	
		306	寸法線（両端矢印あり）	
		309	その他の線	

【注意事項】

- ・ 指定道路の形状を線（中心線）で作成している場合、本システムで指定道路図から調書第二面を作成するためには、別途、みなし境界線の整備が必須である。

(2) 属性情報

属性なしの dbf ファイルを作成する。

3.2.2.2. 道路付帯情報（点）

(1) 図形情報

表 3-4 道路付帯情報(点)の図形とレイヤ No の対応

名称（レイヤ種別）	図形種別	レイヤ No	レイヤ登録情報	作成優先度
道路付帯情報（点）	Point	351	路線の始点	○
		352	路線の終点	○
		359	その他の点	

(2) 属性情報

属性なしの dbf ファイルを作成する。

3.2.2.3. 道路付帯情報（注記）

(1) 図形情報

表 3-5 道路付帯情報（注記）の図形とレイヤ No の対応

名称（レイヤ種別）	図形種別	レイヤ No	レイヤ登録情報	作成優先度
道路付帯情報（点）	Point	401	指定道路の幅員値,水平距離の値	○
		402	現況道路の幅員値	
		403	指定道路図対照番号	○
		404	地名または住所	
		405	建物名	
		409	その他の注記	

(2)属性情報

表 3-6 道路付帯情報（注記）の属性仕様

名称	フィールド名	データの型	データのサンプル	作成優先度
表示角度	ANGLE	文字列	テキストを表示するための0~359度の角度とする。	
テキスト	TEXT	文字列	注記として扱う文字列を登録する。 幅員の値もこのフィールドを使用して登録する。	

3.2.3. ファイル命名規則

ファイル命名規則は、以下に示すとおりとする。ファイル命名規則に従いファイルを作成すること。

ファイル命名規則：（図形識別子）+_+ ***（任意）+.拡張子

ファイル名の***の箇所には、複数ファイルが存在する場合に管理するための文字列を任意に付与してよいものとする。

表 3-7 指定道路・道路付帯情報ファイル仕様一覧

No	名称（レイヤ種別）	図形種別	ファイル名に付与する図形識別子（3バイト）	ファイル名の例	備考
1	指定道路等（面）	Polygon	pol	pol_***.shp pol_***.shx pol_***.dbf	対応するレイヤ No フォルダに分けてファイルを作成すること。 1つのファイル内で、異なる“指定道路種別”を登録してはならない。
2	指定道路等（線）	PolyLine	lin	lin_***.shp	対応するレイヤ No フォ

No	名称（レイヤ種別）	図形種別	ファイル名に付与する図形識別子（3バイト）	ファイル名の例	備考
1	指定道路等（面）	Polygon	pol	pol_***.shp pol_***.shx pol_***.dbf	対応するレイヤ No フォルダに分けてファイルを作成すること。 1つのファイル内で、異なる“指定道路種別”を登録してはならない。
				lin_***.shx lin_***.dbf	ルダに分けてファイルを作成すること。 1つのファイル内で、異なる“指定道路種別”を登録してはならない。
3	道路付帯情報（線）	PolyLine	lin	lin_***.shp lin_***.shx lin_***.dbf	対応するレイヤ No フォルダに分けてファイルを作成すること。
4	道路付帯情報（点）	Point	pnt	pnt_***.shp pnt_***.shx pnt_***.dbf	対応するレイヤ No フォルダに分けてファイルを作成すること。
5	道路付帯情報（注記）	Point	txt	txt_***.shp txt_***.shx txt_***.dbf	対応するレイヤ No フォルダに分けてファイルを作成すること。

3.2.4. フォルダ構成

以下に示すフォルダ構成により、データ交換を行う。1つのレイヤ No のフォルダに対し、異なる図形種別のファイルを登録してはならない。図形種別が異なる場合、別のレイヤ No のフォルダにファイルを格納すること。

フォルダ構成：X:\¥shiteizu¥shitei¥（レイヤ No）¥（ファイル）

※X:は、任意のドライブを示す。

（1）指定道路図

指定道路図で取り扱う図形種別は、点、線、面およびテキスト（注記）である。shitei フォルダの配下にレイヤ No フォルダを作成し、そこにファイルを格納する。

例

X:\¥shiteizu¥shitei¥101¥

X:\¥shiteizu¥shitei¥102¥

.

X:\¥shiteizu¥shitei¥490¥

レイヤ No フォルダ

3.3. 作成にあたっての留意事項

3.3.1. 情報の単位

作成する指定道路図形 1 つに対して、指定道路調書が 1 件のみ対応するものとする。

3.3.2. 指定道路図と形状の対応

本システムを導入する特定行政庁で指定道路の形状を線で整備する場合、以下の仕様とする。

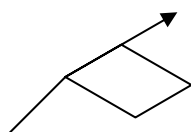
表 3-8 指定道路（線）の図形種別

No	名称(レイヤ種別)	図形種別	備考
1	指定道路（線）	PolyLine	

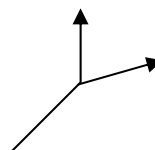
<制約事項>

- ・ Shape のラインデータは、複数の線分（直線、折れ線）を 1 つの集まりにしたデータとして作成することができる。しかし、本データ交換仕様では、1 つの直線または 1 つの折れ線ごとにラインデータを作成するものとする。
- ・ 以下に示す図形は作成しないこと。

a) 一筆書きでないもの（その1）



b) 一筆書きでないもの（その2）



指定道路の形状を範囲で整備する場合、以下の仕様とする。

表 3-9 指定道路（面）の図形種別

No	名称(レイヤ種別)	図形種別	備考
1	指定道路（面）	Polygon	

第4章 位置検索・索引図データ交換仕様

4.1. 対象範囲

本項では、本システムで管理する位置検索データおよび索引図データを CSV 形式および地図データファイル（Shape 形式）を用いてデータ登録するための交換仕様について記述する。なお本システムで管理している地図情報の中で、位置検索・索引図データとして交換対象となる範囲は以下の通りである。

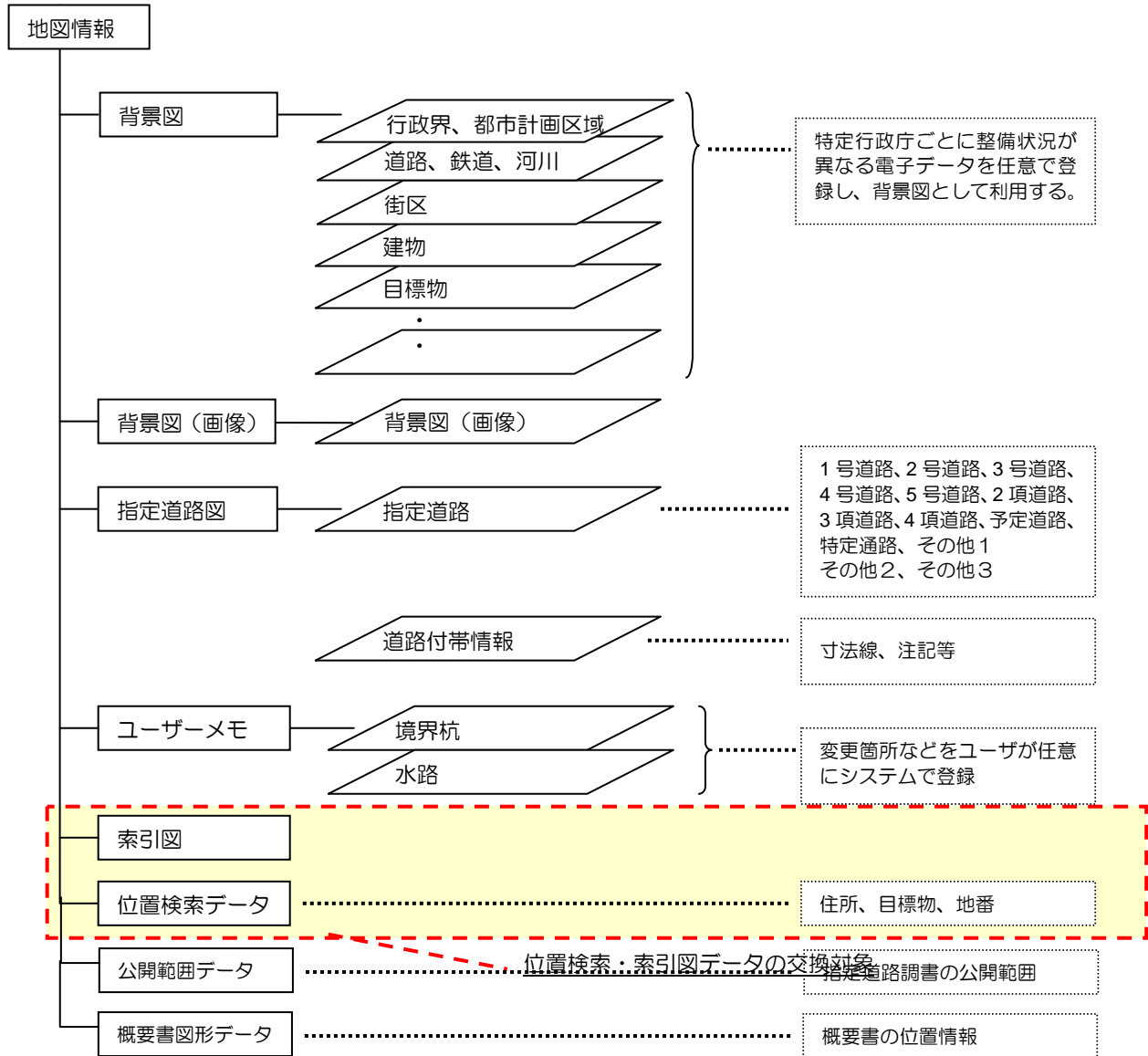


図 4-1 位置検索・索引図データの交換対象となる範囲

4.2. 交換ファイル仕様

本システムへの位置検索・索引図データの登録は、以下に示す交換ファイルを用いて行う。CSV形式、Shape形式のどちらの場合も空間参照系は日本測地座標 2000 の平面直角座標系とする。

以下に示す交換ファイルで整備するデータの範囲は、本システムを導入する特定行政庁が管轄するデータのみ作成する。

表 4-1 位置検索・索引図データファイル仕様一覧

項番	交換ファイル名称	ファイル形式	ファイル名	作成優先度
1	位置検索データ（住所）	CSV 形式	domain.csv city.csv major.csv	○
2	位置検索データ（目標物）	CSV 形式	landmarkcode.csv landmark.csv	
3	筆界データ（面）	Shape 形式	pol_chiban.shp pol_chiban.shx pol_chiban.dbf	
4	地番データ（注記）	Shape 形式	txt_chiban.shp txt_chiban.shx txt_chiban.dbf	
5	索引図データ	Shape 形式	pol_sakuinzu_*****.shp pol_sakuinzu_*****.shx pol_sakuinzu_*****.dbf lin_sakuinzu_*****.shp lin_sakuinzu_*****.shx lin_sakuinzu_*****.dbf	

4.2.1. 位置検索データ（住所）の仕様

位置検索データ（住所）は、位置を示す大字・町丁目名と、それに対応する代表点の座標である。本システムでは、指定した位置を示す地名の場所へ地図表示範囲を移動するデータとして用いる。

住所は都道府県、市町村区、大字・町丁目、の3階層を定義し、代表点の座標を定義する。また、各マスタファイルを CSV 形式で作成するものとする。

以下に示す3つのファイルを作成するものとする。

表 4-2 位置検索データ（住所）作成対象ファイル一覧

項番	交換ファイル名称	ファイル形式	名称	ファイル名	備考
1	位置検索データ（住所）	CSV 形式	都道府県マスタ	domain.csv	
2			市区町村マスタ	city.csv	
3			大字・町丁目マスタ	major.csv	

以下に各ファイルの詳細仕様を示す。

表 4-3 都道府県マスタ(domain.csv)の仕様

項番	名称	データ型	長さ	データのサンプル
1	都道府県コード	文字列	2バイト	14
2	都道府県名称	文字列		神奈川県

例

domain.csv の作成例

14,神奈川県

表 4-4 市区町村マスタ(city.csv)の仕様

項番	名称	データ型	長さ	データのサンプル
1	都道府県コード	文字列	2バイト	14
2	市区町村名コード	文字列	3バイト	131
3	市区町村名	文字列		丸山市
4	市区町村名(読み仮名)	文字列		まるやまし

【制約事項】

- ・東京都には特別区があるため、特別区は市区町村の階層とする。

例 ○○○区

市区町村には、郡名や政令指定都市の行政区名も含まれる。

例 ○○郡△△△町、○○市□□□区

- ・項番4の読み仮名にはひらがなか全角算用数字のみを使用すること。

例

city.csv の作成例

14,121,丸山市,まるやまし

14,122,丸川市,まるかわし

表 4-5 大字・町丁目マスタ(major.csv)の仕様

項番	名称	データ型	長さ	データのサンプル
1	都道府県コード	文字列	2バイト	14
2	市区町村コード	文字列	3バイト	121
3	大字・町丁目名	文字列		富士見町一丁目
4	大字・町丁目名(読み仮名)	文字列		ふじみちょう1ちょうめ
5	代表点Y座標(平面直角座標の横軸の座標)	数値		1000.000
6	代表点X座標(平面直角座標の縦軸の座標)	数値		1200.000

【制約事項】

- ・ 項番4の読み仮名にはひらがなか全角算用数字のみを使用すること。

例

major.csv の作成例

14,121, 富士見町一丁目, ふじみちょう1ちょうめ,1000.000,1200.000
14,121, 富士見町二丁目, ふじみちょう2ちょうめ,1400.000,1500000

4.2.2. 位置検索データ（目標物）の仕様

位置を示す目標物名とそれに対応した代表点の座標である。本システムでは、指定した目標物の場所へ地図表示範囲を移動するためのデータとして用いる。

位置検索データ（目標物）は、以下に示す目標物分類データ（landmarkcode.csv）と目標物データ（landmark.csv）の2つのデータを整備する必要がある。
--

以下に示す2つのファイルを作成する。

表 4-6 位置検索データ（目標物）作成対象ファイル一覧

項番	交換ファイル名称	ファイル形式	名称	ファイル名	備考
1	位置検索データ（目標物）	CSV形式	目標物分類	landmarkcode.csv	
2			目標物	landmark.csv	

以下に各ファイルの詳細仕様を示す。

表 4-7 目標物分類（landmarkcode.csv）の仕様

項番	名称	データの型	長さ	データのサンプル
1	目標物分類コード	文字列	3バイト	811
2	目標物分類名	文字列	任意	市役所

例

landmarkcode.csv の作成例

811,市役所
822,警察署

表 4-8 目標物 (landmark.csv) の仕様

項番	名称	データの型	長さ	データのサンプル
1	都道府県コード	文字列	2バイト	01
2	市区町村コード	文字列	3バイト	123
3	目標物分類コード	文字列	3バイト	(1) 目標物分類で定義した目標物分類コード
4	目標物の名称 (漢字)	文字列	任意	〇〇市役所
5	目標物の名称 (読み仮名)	文字列	任意	〇〇しやくしよ
6	代表点Y座標(平面 直角座標の横軸の 座標)	数値		1000.000
7	代表点X座標(平面 直角座標の縦軸の 座標)	数値		1200.000

【制約事項】

- ・項番5の読み仮名にはひらがなか全角算用数字のみを使用すること

例

landmark.csv の作成例

```
01,123,811,丸川市役所,まるかわしやくしよ,1000.000,1200.000
01,123,811,丸山市役所,まるやましやくしよ,3520.100,4521.124
```

4.2.3. 地番検索データの仕様

地番検索データは、筆界の範囲を示すデータと地番名を作成する。本データは、指定道路調書（第一面）の「指定道路の位置」の入力補助機能として地番検索に使用するものであり、地図上に表示するための地番データも作成する。筆界データは、概ね指定道路と位置的に整合するデータであることが望ましい。

なお、このデータが整備されていない場合においても、「指定道路の位置」に直接地番を登録することが可能なため、筆界データ、地番データは必須ではない。

都道府県、市町村区、大字・町丁目、地番・枝番とそれに対応する検索用の筆界データと地図上に表示するための地番データを Shape 形式で任意に作成する。

4.2.3.1. 筆界

(1) 図形情報

形状を示すデータは、以下の仕様で pol_chiban.shp を作成する。作成したデータは図形識別番号のフォルダに配置する。

表 4-9 筆界データ図形種別とデータ識別番号の対応

項番	名称 (レイヤ種別)	図形種別	データ種別番号	備考
1	筆界	Polygon	901	

(2) 属性情報

筆界の属性データは、以下の仕様で pol_chiban.dbf を作成し、図形情報に対応するデータ識別フォルダに配置する。

表 4-10 筆界の属性仕様

項番	フィールド名称	フィールド名	データの型	データのサンプル
1	市区町村名	CITYNAME	文字列	平沢市
2	大字・町丁目名	MAJORNAME	文字列	富士見町
3	地番・枝番	CHIBAN	文字列	20 番 1

【制約事項】

- ・東京都には特別区があるため、特別区は市区町村の階層とする。

例 ○○○区

市区町村には、郡名や政令指定都市の行政区名も含まれる。

例 ○○郡△△△町、○○市□□□区

4.2.3.2. 地番の仕様

(1) 図形情報

地番を示すデータは、以下の仕様で txt_chiban.shp を作成する。

表 4-11 地番データ図形種別とデータ識別番号の対応

項番	名称 (レイヤ種別)	図形種別	データ種別番号	備考
1	地番	Point	902	

(2) 属性情報

地番の属性データは、以下の仕様で txt_chiban.dbf を作成する。

表 4-12 地番の属性仕様

項番	フィールド名称	フィールド名	データの型	データのサンプル
1	市区町村名	CITYNAME	文字列	平沢市
2	大字・町丁目名	MAJORNAME	文字列	富士見町
3	地番・枝番	CHIBAN	文字列	20 番 1

【制約事項】

- ・東京都には特別区があるため、特別区は市区町村の階層とする。

例 ○○○区

市区町村には、郡名や政令指定都市の行政区名も含まれる。

例 ○○郡△△△町、○○市□□□区

4.2.4. 索引図データの仕様

索引図データは、本システムで表示している地図表示域が、特定行政庁のどの場所かを表示するための索引図として利用するデータである。索引図データは、面（ポリゴン）または、線（ライン）で、特定行政庁の範囲より、位置を特定するための代表的な幾何形状を表現することができる行政界や道路等のベクトル形式のデータを整備する。

複数のデータを組み合わせることが可能であるが、索引図は単色で表示されることに配慮すること。また、本システムで扱う索引図のサイズは 200 ピクセル程度であり、高い精度を持つデータは必要としない。

索引図データは Shape 形式のファイルとし、面（ポリゴン）または、線（ライン）の形状で作成する。

(1) 図形情報

索引図データの図形種別は、面または線で作成するものとする。

表 4-13 索引図データの図形種別とデータ種別番号の対応

項番	レイヤ種別	図形種別	データ種別番号	備考
1	索引図データ（面）	Polygon	921～929	複数の地図レイヤを組み合わせる場合、921～929 のデータ種別番号を使用すること。
2	索引図データ（線）	Polyline	931～939	複数の地図レイヤを組み合わせる場合、931～939 のデータ種別番号を利用してよい

(2) 属性情報

属性を持たないが、属性なしの DBF ファイルを作成すること。

4.2.5. フォルダ構成

以下に示すフォルダ構成により、データ交換を行う。項番5の索引図データの Shape ファイルを格納する場合、1つのデータ種別番号のフォルダに対し、異なる図形種別のファイルを登録してはならない。

フォルダ構成：X:\shiteizu\kensaku ¥ (データ種別番号) ¥ (ファイル)

※X:は、任意のドライブを示す。

位置検索・索引図データ扱うファイルは、CSV形式と Shape 形式である。これらのファイルは以下に示す shiteizu\kensaku フォルダ配下にデータ種別番号フォルダを作成し、ファイルを格納する。

表 4-14 位置検索・索引図データファイル一覧

項番	交換ファイル名称	形式	ファイル名	データ識別番号
1	位置検索データ (住所)	CSV 形式	domain.csv city.csv major.csv	801
2	位置検索データ (目標物)	CSV 形式	landmarkcode.csv landmark.csv	811
3	筆界	Shape 形式	pol_chiban.shp pol_chiban.shx pol_chiban.dbf	901
4	地番	Shape 形式	txt_chiban.shp txt_chiban.shx txt_chiban.dbf	902
5	索引図データ	Shape 形式	pol_sakuinzu_****.shp pol_sakuinzu_****.shx pol_sakuinzu_****.dbf	図形種別が Polygon の場合：921~929
			lin_sakuinzu_****.shp lin_sakuinzu_****.shx lin_sakuinzu_****.dbf	図形種別が Polyline の場合：931~939

例

X:\shiteizu\kensaku\801

X:\shiteizu\kensaku\811

X:\shiteizu\kensaku\901

X:\shiteizu\kensaku\921

データ種別番号フォルダ

4.3. 利用可能なデータについて

位置検索・索引図データとして利用可能なデータの例を以下に示す。これらのファイルは、個々のデータ仕様に基づき作成されているため、本システムで位置検索・索引図データとして利用するには、本データ交換仕様に基づき、データフォーマットを変換する必要がある。

表 4-15 位置検索・索引図データとして利用可能なデータ一覧

項番	データ名	内容
1	位置参照情報 (大字・町丁目レベル位置参照情報)	国土交通省が保有し提供する位置参照情報には、街区レベル位置参照情報と大字・町丁目レベル位置参照情報がある。 URL http://nlftp.mlit.go.jp/isi/ 大字・町丁目レベル位置参照情報は、住所体系のうち、市、町、村、区、特別区の直下に属す行政区である「大字」、「町丁目」、自治体によっては「町字」を示す住所代表点の位置座標を対応づけた情報であるため、住所検索データとして利用することが可能である。
2	都市計画基本図データ (DM データ) データ形式：国土交通省公共測量作業規程に準拠した形式	縮尺 1/2500 のベクトルデータである。公共測量作業規程にもとづき、主に都市計画区域を対象に作成されており、境界、道路、鉄道、建物、公共施設、水部、構囲、注記などでの項目で構成される。更新サイクルは、概ね5年である。
3	基盤地図情報 (縮尺レベル 2,500 以上) データ形式：XML	縮尺 1/2500 相当以上のベクトルデータである。国土交通省令で定めるものの位置情報として、行政区画の境界線及び代表点、道路線、軌道の中心線、標高点、海岸線、水涯線、建築物の外周線、市町村の町若しくは字の境界線及び代表点で構成されている。平成 21 年度中に全国の都市計画区域を整備する予定であるが、平成 20 年度内には未整備の範囲もある。
4	数値地図 2500(空間データ基盤) データ形式：XML	縮尺 1/2500 相当のベクトルデータである。都市計画基本図がベースとなっており、行政区、道路中心線、街区、鉄道・駅、水部、注記などの項目で構成される。全国の都市計画区域を対象に整備されているが、地域によっては整備項目が限定されていたり、未整備のケースもある。
5	商用住宅地図データ データ形式：独自フォーマット	主になレイヤとして行政界、道路、鉄道、河川、水路、街区、建物、注記等の項目で構成される。商品によりデータ項目やデータの位置正確度、データ形式、更新サイクル、価格、ライセンス等が異なる。特に、ライセンスにもとづく利用範囲に注意する必要がある。

4.3.1. 位置検索データ（住所）として利用可能なデータ

項番1の大字・町丁目レベル位置参照情報を元に市町村コードを付与し、フォーマット変換等を行うことで、本システムの位置検索データ（住所）を作成することが可能である。

4.3.2. 位置検索データ（目標物）として利用可能なデータ

項番2、項番3、項番4、項番5のデータを利用し、本システムの位置検索データ（目標物）を作成することが可能である。ただし、項番2の公共建物の位置を示すデータのようにポリゴンである場合、代表点を算出し、フォーマットを本システムの位置検索データ（目標物）にする必要がある。

4.3.3. 索引図データとして利用可能なデータ

項番2、項番3、項番4、項番5のデータを元に、行政界などいくつかのレイヤを選定し、フォーマット変換することで索引図データの整備が可能である。なお、項番2、項番5のデータは図郭でデータが分かれているため1つデータにまとめる必要がある。

4.4. 作成にあたっての留意事項

4.4.1. 情報の縮尺

- ・本システムでは縮尺の切り替えで、1/250~1/5000で表示可能である。情報の重要度を検討し、位置検索データとして適切な精度を保有すること。
- ・本システムで扱う索引図のサイズは200ピクセル程度であり、高い精度を持つデータは必要としない。

第5章 指定道路調書データ交換仕様

5.1. 対象範囲

本項では、本システムで管理する指定道路調書データを、道路情報管理様式（Ver2）等の外部ツールからインポートする際のデータ交換仕様について記述する。なお本システムで管理する指定道路情報の中で、指定道路調書データとして交換対象となる範囲は以下のとおりである。

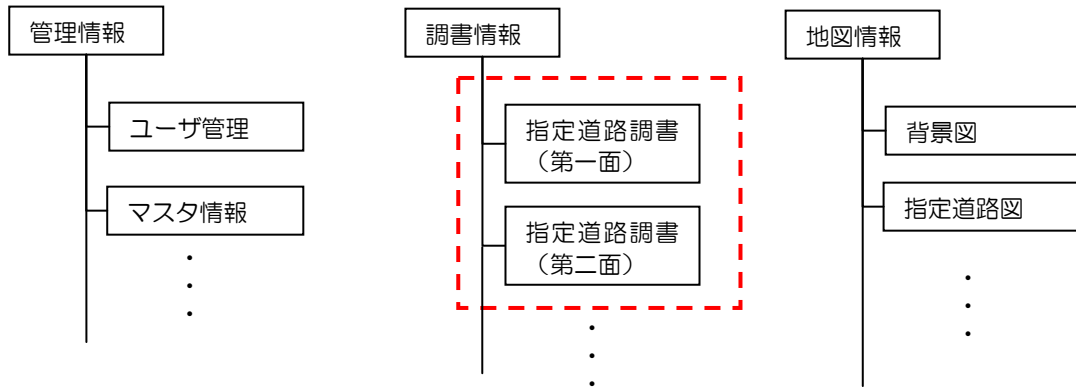


図 5-1 道路情報登録閲覧システム内データ構造

5.2. 指定道路調書データ交換ファイル

指定道路調書データ交換ファイルは、LHA 形式でまとめられたファイルとし、以下に示す合計4ファイルを格納する。各ファイルの内容を以下に示す。

表 5-1 指定道路調書データ交換ファイル形式

ファイル名	形式	内容
指定道路調書データ交換ファイル (任意のファイル名)	LHA	指定道路調書データ交換ファイルには、指定道路情報、添付ファイル、調書第二面の実データ情報を LHA 形式でまとめたファイルが含まれる。道路情報登録閲覧システムへインポートする際は、本ファイルを指定する。 ※ファイルサイズは非圧縮状態で 1.9GB 以下とする。それを越える場合、指定道路調書データ交換ファイルを複数のファイルに分けて作成する。

表 5-2 指定道路調書データ交換ファイル格納内容

ファイル名	形式	内容
指定道路調書.csv	CSV	指定道路調書（第一面）の情報。その他管理系の情報も含まれる。
添付ファイル.csv	CSV	指定道路調書の添付ファイルを設定する。添付ファイルには、指定道路調書（第二面）、関連資料が含まれる。
申請者.csv	CSV	指定道路調書の申請者を設定する。
<i>Drive</i> 添付ファイル.lzh	LHA	添付ファイル、調書第二面の実データを圧縮したもの。 <i>Drive</i> は任意の英字 1 文字とし、実データは、ディレクトリ構成を含む。添付ファイルが存在しない場合は準備する必要は無い。また、LHA 形式にまとめる際、複数ファイル構成で作成可とする。

5.3. 指定道路調書データ交換ファイルについて

5.3.1. 各ファイルの説明

(1) 指定道路調書.csv

指定道路調書（第一面）の情報を格納するファイルである。親 ID、子 ID を利用する事により、指定道路調書の変更履歴を管理する事を可能とする。

(2) 添付ファイル.csv

指定道路調書（第二面）、指定道路調書に関連する資料（画像データなど）を管理するファイルである。(4) Drive_添付ファイルに格納される実データのファイル名（(4) Drive_添付ファイル.lzh に格納されているパスを含む）を格納する。

(3) 申請者.csv

指定道路調書（第一面）の申請者を登録する。

(4) Drive_添付ファイル.lzh

(2) 添付ファイル.csv に格納されているファイルの実データを、LHA 形式でまとめたファイル。複数ファイル用意する事を可能とする。

5.3.2. 各ファイル間の関連

各ファイル間の関連を以下に示す。

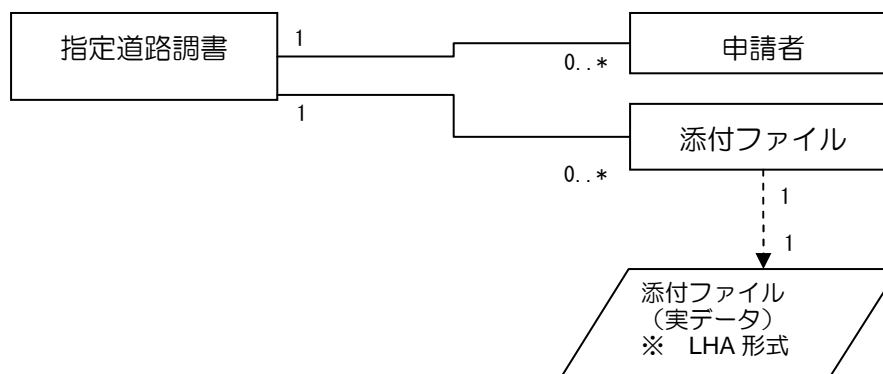


図 5-2 各ファイル間の関連

5.4. ファイルフォーマット

5.4.1. 各フォーマット共通事項

(1) CSV ファイル形式

指定道路調書.csv、添付ファイル.csv、申請者.csv は、ファイル形式を CSV ファイルとし、区切り記号として、「,」（カンマ）を指定する。

(2) 文字型の出力形式

出力属性が“文字”である場合、「”」（ダブルクォーテーション）で囲み、データ中の「”」は2重指定する。

（例） 「aa” bb” cc」 → 「” aa”” bb”” cc”」

(3) NULL 型の出力形式

出力属性が“NULL”である場合、何も出力しない（区切り記号（カンマ）の連続となる）。

（例） 「,(NULL),」 → 「,,」

(4) 数値型の出力形式

出力属性が“数値”である場合、そのまま出力する。

(5) 文字数値型の出力形式

出力属性が“文字数値”である場合、文字として扱う数値データとなる。桁数に満たない場合は、上位を半角スペースで埋める。

（例） 整数部：5桁、小数部：3桁（小数点1桁を含む）の領域に、「123.45」を格納する場合

→ 「” △△123.45”」 ※ 「△」は半角スペース

(6) 日時数値型の出力形式

出力属性が“日時数値”である場合、西暦4桁、月2桁、日2桁、時2桁、分2桁、秒2桁を以下フォーマットで出力する。

【フォーマット】

西暦-月-日△時:分:秒 ※ 「△」は半角スペース

（例） 2008年6月3日20時6分9秒の場合 → 「2008-06-03△20:06:09」

5.4.2. 指定道路調書フォーマット

指定道路調書のフォーマットを以下に示す。

表 5-3 指定道路調書フォーマット

項番	項目名称	出力属性	出力内容
1.	指定道路調書 SEQ	数値	
2.	削除フラグ	数値	0：通常、1：削除
3.	親調書 ID	数値	
4.	子調書 ID	数値	
5.	レイヤ SEQ	NULL	
6.	GEOSEQ	NULL	
7.	仮登録	数値	0：本登録、1：仮登録
8.	公開／非公開	NULL	
9.	指定日（記載日）一元号	文字	01：明治 02：大正 03：昭和 04：平成
10.	指定日（記載日）一年（和暦）	数値	
11.	指定日（記載日）一年（西暦）	数値	
12.	指定日（記載日）一月	数値	
13.	指定日（記載日）一日	数値	
14.	指定日（記載日）	NULL	和暦で連結した年月日（表示用）
15.	指定番号	文字	最大半角32字（全角16字）
16.	整理番号	文字	最大半角32字（全角16字）
17.	指定道路図対照番号	文字	最大半角32字（全角16字）
18.	指定道路の種類	文字	01：1号道路 02：2号道路 03：3号道路 04：4号道路 05：5号道路 06：2項道路 07：2項道路（3項に基づく水平距離指定がされた部分） 08：4項道路 09：予定道路 10：特定通路 （90：その他1、91：その他2、92：その他3はない）
19.	指定道路の種類（細分類）	NULL	
20.	指定の年月日一元号	文字	01：明治 02：大正 03：昭和 04：平成
21.	指定の年月日一年（和暦）	数値	
22.	指定の年月日一年（西暦）	数値	
23.	指定の年月日一月	数値	
24.	指定の年月日一日	数値	
25.	指定の年月日	NULL	和暦で連結した年月日（表示用）
26.	指定道路の延長（入力値）	文字数値	整数部：5桁、小数部：3桁（小数点1桁）
27.	指定道路の延長	NULL	
28.	指定道路の幅員最大（入力値）	文字数値	整数部：3桁、小数部：3桁（小数点1桁）

項番	項目名称	出力属性	出力内容
29.	指定道路の幅員最大	NULL	
30.	指定道路の幅員最小（入力値）	文字数値	整数部：3桁、小数部：3桁（小数点1桁）
31.	指定道路の幅員最小	NULL	
32.	指定道路の位置	文字	最大2048文字
33.	水平距離指定の年月日一元号	文字	O1：明治 O2：大正 O3：昭和 O4：平成
34.	水平距離指定の年月日一年（和暦）	数値	
35.	水平距離指定の年月日一年（西暦）	数値	
36.	水平距離指定の年月日一月	数値	
37.	水平距離指定の年月日一日	数値	
38.	水平距離指定の年月日	NULL	和暦で連結した年月日（表示用）
39.	水平距離指定に係る道路の部分の延長（入力値）	文字数値	整数部：5桁、小数部：3桁（小数点1桁）
40.	水平距離指定に係る道路の部分の延長	NULL	
41.	水平距離最大（入力値）	文字数値	整数部：3桁、小数部：3桁（小数点1桁）
42.	水平距離最大	NULL	
43.	水平距離最小（入力値）	文字数値	整数部：3桁、小数部：3桁（小数点1桁）
44.	水平距離最小	NULL	
45.	水平距離指定に係る道路の部分の位置	文字	最大2048文字
46.	その他	文字	最大256文字
47.	指定公告日一元号	文字	O1：明治 O2：大正 O3：昭和 O4：平成
48.	指定公告日一年（和暦）	数値	
49.	指定公告日一年（西暦）	数値	
50.	指定公告日一月	数値	
51.	指定公告日一日	数値	
52.	指定公告日	NULL	和暦で連結した年月日（表示用）
53.	指定公告番号	文字	最大半角32字（全角16字）
54.	水平距離指定公告日一元号	文字	O1：明治 O2：大正 O3：昭和 O4：平成
55.	水平距離指定公告日一年（和暦）	数値	
56.	水平距離指定公告日一年（西暦）	数値	
57.	水平距離指定公告日一月	数値	
58.	水平距離指定公告日一日	数値	
59.	水平距離指定公告日	NULL	和暦で連結した年月日（表示用）
60.	水平距離指定公告番号	文字	最大半角32字（全角16字）
61.	備考	文字	最大512文字
62.	指定取消日一元号	文字	O1：明治 O2：大正 O3：昭和

項番	項目名称	出力属性	出力内容
			O4：平成
63.	指定取消日一年（和暦）	数値	
64.	指定取消日一年（西暦）	数値	
65.	指定取消日一月	数値	
66.	指定取消日一日	数値	
67.	指定取消日	NULL	和暦で連結した年月日（表示用）
68.	ステータス	文字	'01'：通常、'99'：削除
69.	登録年月日時分秒	日時数値	初回登録時の年（西暦）月日時分秒。
70.	更新年月日時分秒	日時数値	最終更新時の年（西暦）月日時分秒。
71.	削除年月日時分秒	日時数値	削除時の年（西暦）月日時分秒。
72.	予備1	NULL	
73.	予備2	NULL	
74.	予備3	NULL	

5.4.3. 添付ファイルフォーマット

添付ファイルのフォーマットを以下に示す。

表 5-4 添付ファイルフォーマット

項番	項目名称	出力属性	出力内容
1.	添付ファイル SEQ	NULL	
2.	種別	文字	'02'：調書第二面 '03'：添付ファイル (注：'01'：調書第二面（自動生成）はない)
3.	指定道路調書 SEQ	数値	
4.	ファイル名	文字	最大256文字。内容については、「5.7.2.添付ファイル.csv ファイルの設定内容と添付ファイル(実データ)の関連について」を参照してください。
5.	ステータス	文字	'01'：通常、'99'：削除
6.	登録年月日	日時数値	初回登録時の年（西暦）月日時分秒。
7.	更新年月日	日時数値	最終更新時の年（西暦）月日時分秒。
8.	削除年月日	日時数値	削除時の年（西暦）月日時分秒。

5.4.4. 申請者フォーマット

申請者のフォーマットを以下に示す。

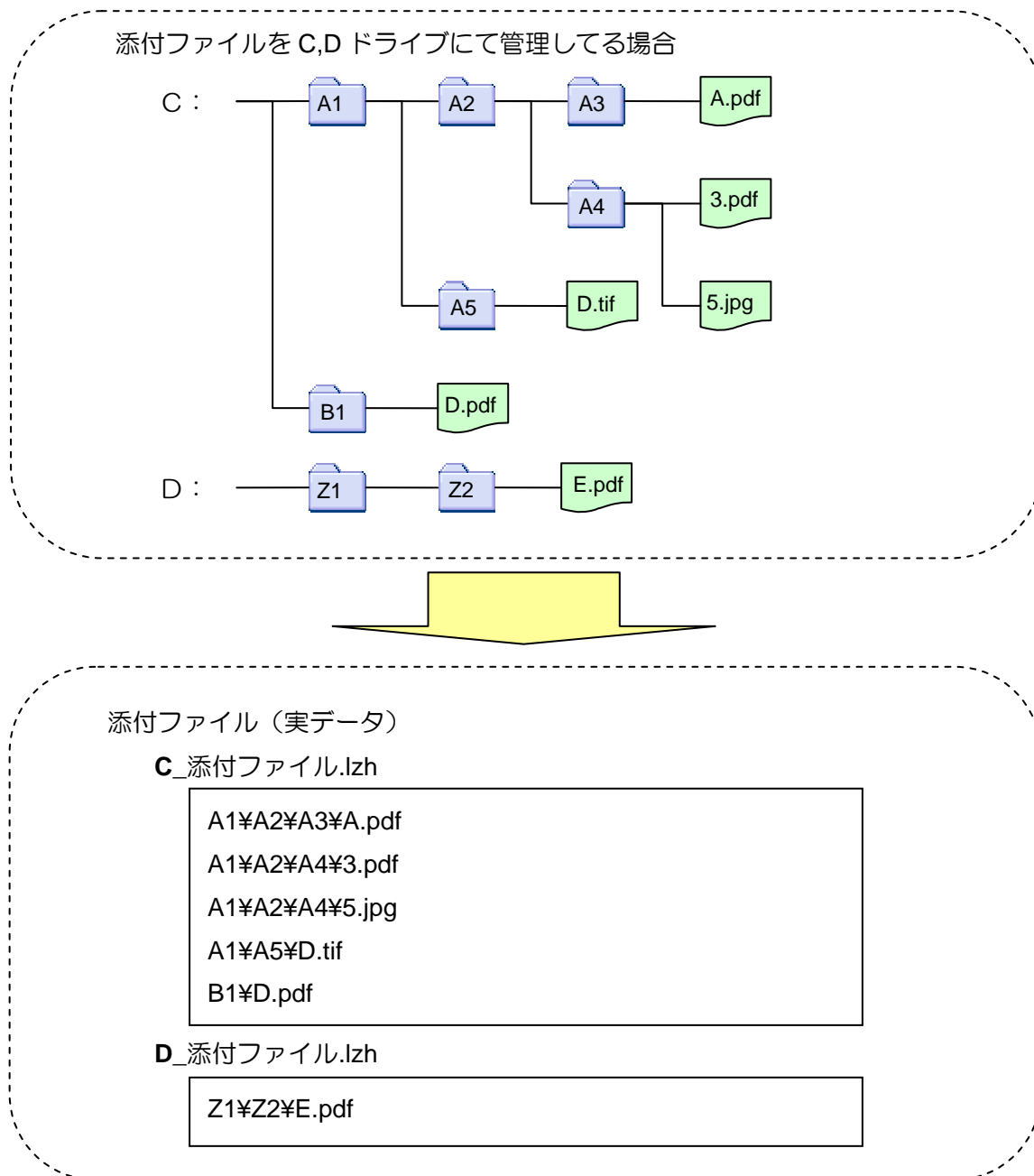
表 5-5 申請者フォーマット

項番	項目名称	出力属性	出力内容
1.	申請者 SEQ	NULL	
2.	指定道路調書 SEQ	数値	
3.	氏名	文字	最大64文字
4.	ステータス	文字	'01'：通常、'99'：削除
5.	登録年月日	日時数値	初回登録時の年（西暦）月日時分秒。
6.	更新年月日	日時数値	最終更新時の年（西暦）月日時分秒。
7.	削除年月日	日時数値	削除時の年（西暦）月日時分秒。

5.5. 添付ファイル（実データ）の構成

添付ファイル（実データ）は、指定道路調書に関連する添付ファイル（指定道路調書（第二面）、その他関係資料）の実体を LHA 形式でまとめたファイルである。

LHA ファイルでのフォルダ構成は、任意とし、任意の英字 1 文字をファイル名に付与した形とする。実データのファイル名は、任意のファイル名とする。



※ 上記例では、LHA ファイル名は任意の英字 1 文字をドライブ名としている。

図 5-3 添付ファイルの構成

5.6. 各CSVファイル間の紐付け情報について

5.3 で記載した通り、各 CSV ファイル間では紐付け情報により関連を持たせている。各紐付け情報の説明を以下に示す。

5.6.1. 指定道路調書.csvファイルの紐付け情報

(1) 指定道路調書 SEQ

指定道路調書.csv のレコード番号に相当する情報で、各レコードで一意となる情報を付与する。

(2) 親調書 ID

指定道路調書の履歴を管理する際に使用する。当該レコードの 1 世代前の調書が存在する場合、1 世代前の子調書 ID と本項目に同一の ID を付与する。統合、分割オペレーションを行った場合でも、n 対 1、1 対 n の関係で同様に ID を設定する。

(3) 子調書 ID

指定道路調書の履歴を管理する際に使用する。当該レコードの 1 世代後の調書が存在する場合、1 世代後の親調書 ID と本項目に同一の ID を付与する。統合、分割オペレーションを行った場合でも、n 対 1、1 対 n の関係で同様に ID を設定する。

5.6.2. 添付ファイル.csvファイルの紐付け情報

(1) 添付ファイル SEQ

添付ファイル.csv のレコード番号に相当する情報で、各レコードで一意となる情報を付与する。

(2) 指定道路調書 SEQ

添付ファイルの紐付け元となる指定道路調書の SEQ を格納する。

5.6.3. 申請者.csvファイルの紐付け情報

(1) 申請者 SEQ

申請者.csv のレコード番号に相当する情報で、各レコードで一意となる情報を付与する。

(2) 指定道路調書 SEQ

申請者の紐付け下となる指定道路調書の SEQ を格納する。

5.7. 作成にあたっての留意事項

5.7.1. 各CSVファイルのSEQ番号について

(1) 指定道路調書 SEQ

指定道路調書.csv ファイルの中で一意となる番号を付与する。添付ファイル.csv、申請者.csv との紐付けにも使用する番号となる為、各 CSV ファイル間で整合性が取れている必要がある。

(2) 添付ファイル SEQ

添付ファイル.csv ファイルの中で一意となる番号を付与する。指定道路調書 SEQ、申請者 SEQ との関連性は無いので、同一の番号を付与しても問題ない。

(3) 申請者 SEQ

申請者.csv ファイルの中で一意となる番号を付与する。指定道路調書 SEQ、添付ファイル SEQ との関連性は無いので、同一の番号を付与しても問題ない。

(4) 作成例

以下に、各 CSV ファイルの SEQ 番号作成例を示す。

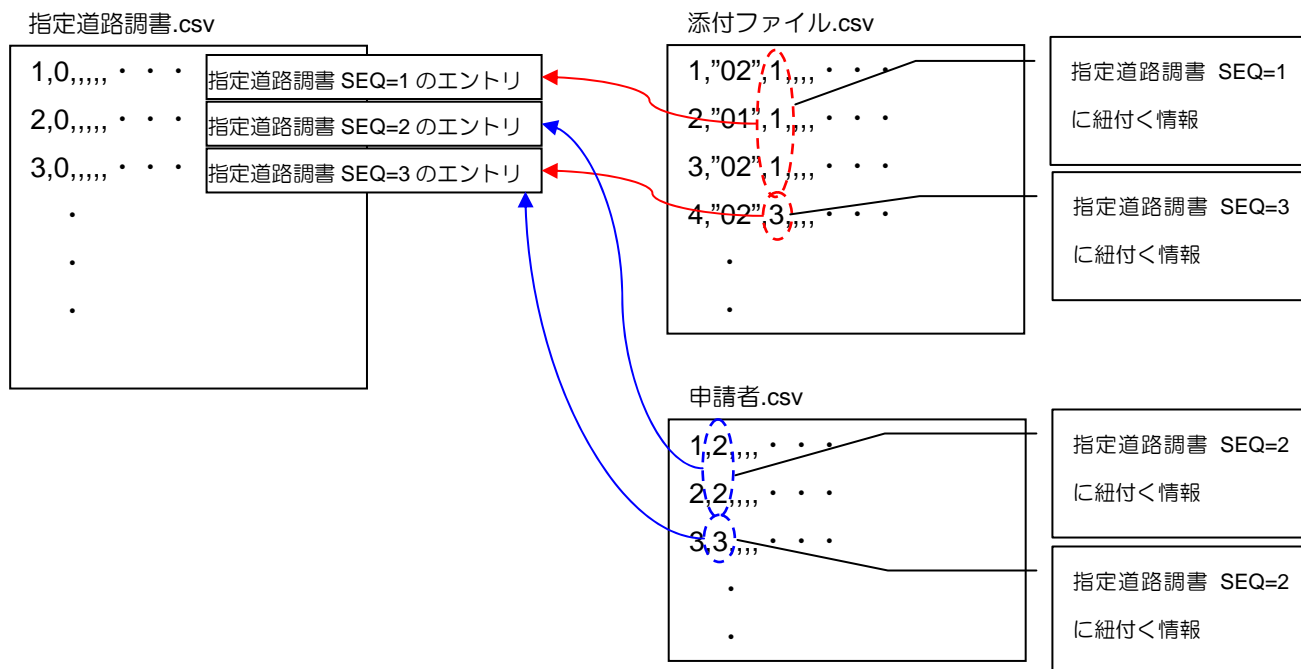


図 5-4 各 CSV ファイルの SEQ 番号作成例

5.7.2. 添付ファイル.csvファイルの設定内容と添付ファイル（実データ）の関連について

(1) 添付ファイル.csv ファイルのファイル名設定内容について

添付ファイル.csv のファイル名へ設定する情報は、「添付ファイル格納元ドライブ」＋「添付ファイル（実データ）のファイル名（パス付き）」とする。

(2) 添付ファイル（実データ）との関連

添付ファイル.csv のファイル名の「添付ファイル格納元ドライブ」を取除いた状態と添付ファイル（実データ）の格納ファイルが、同一の状態となる様に作成する必要がある。以下に添付ファイル（実データ）の内容と添付ファイル.csv に設定するファイル名の設定例を示す。

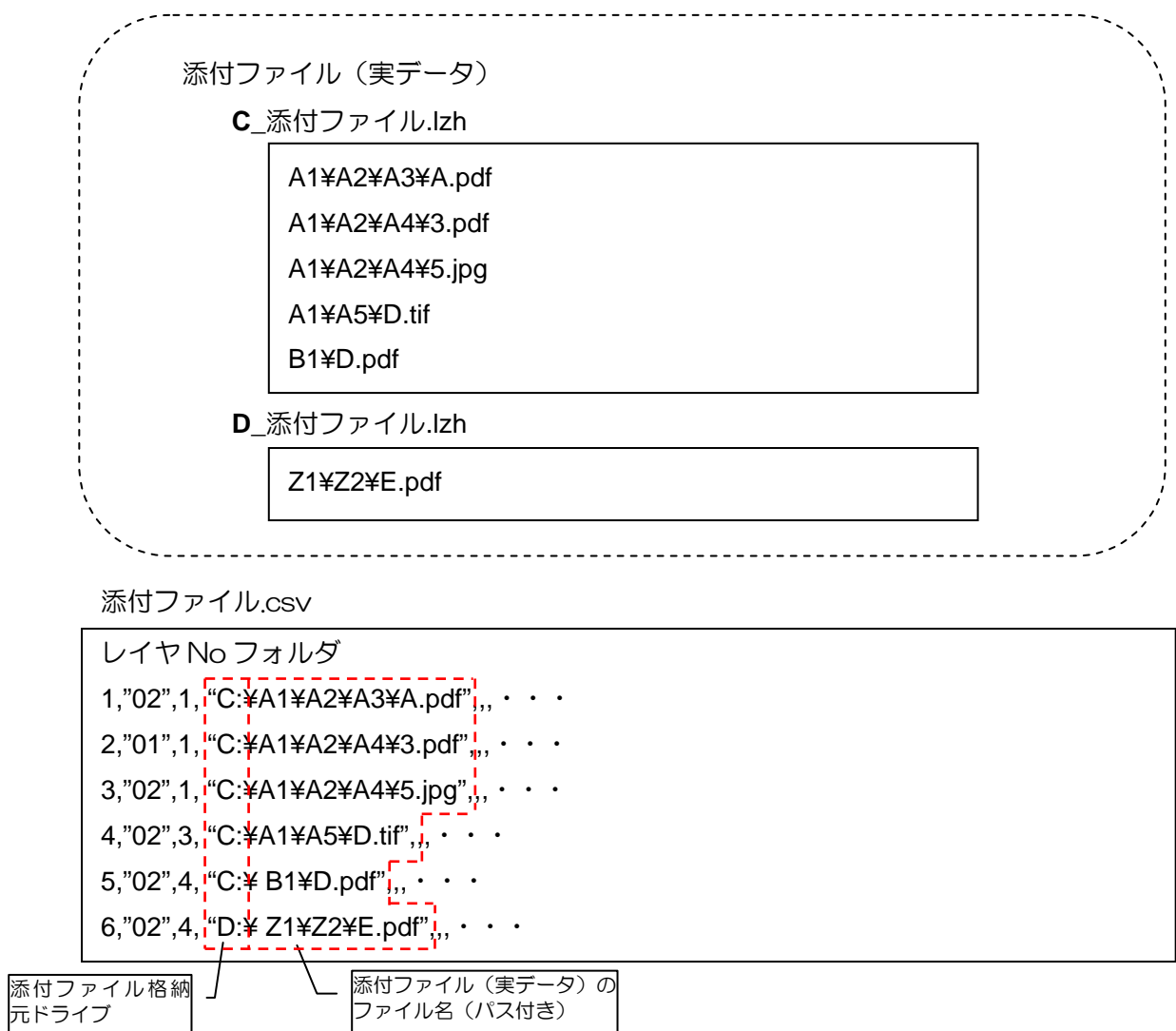


図 5-5 添付ファイル（実データ）との関連

第6章 公開範囲データ交換仕様

6.1. 対象範囲

公開範囲データは公開範囲データ内に含まれる図形を持つ指定道路調書、公開範囲外にある図形を持つ指定道路調書の公開・非公開を設定するために使用するデータである。

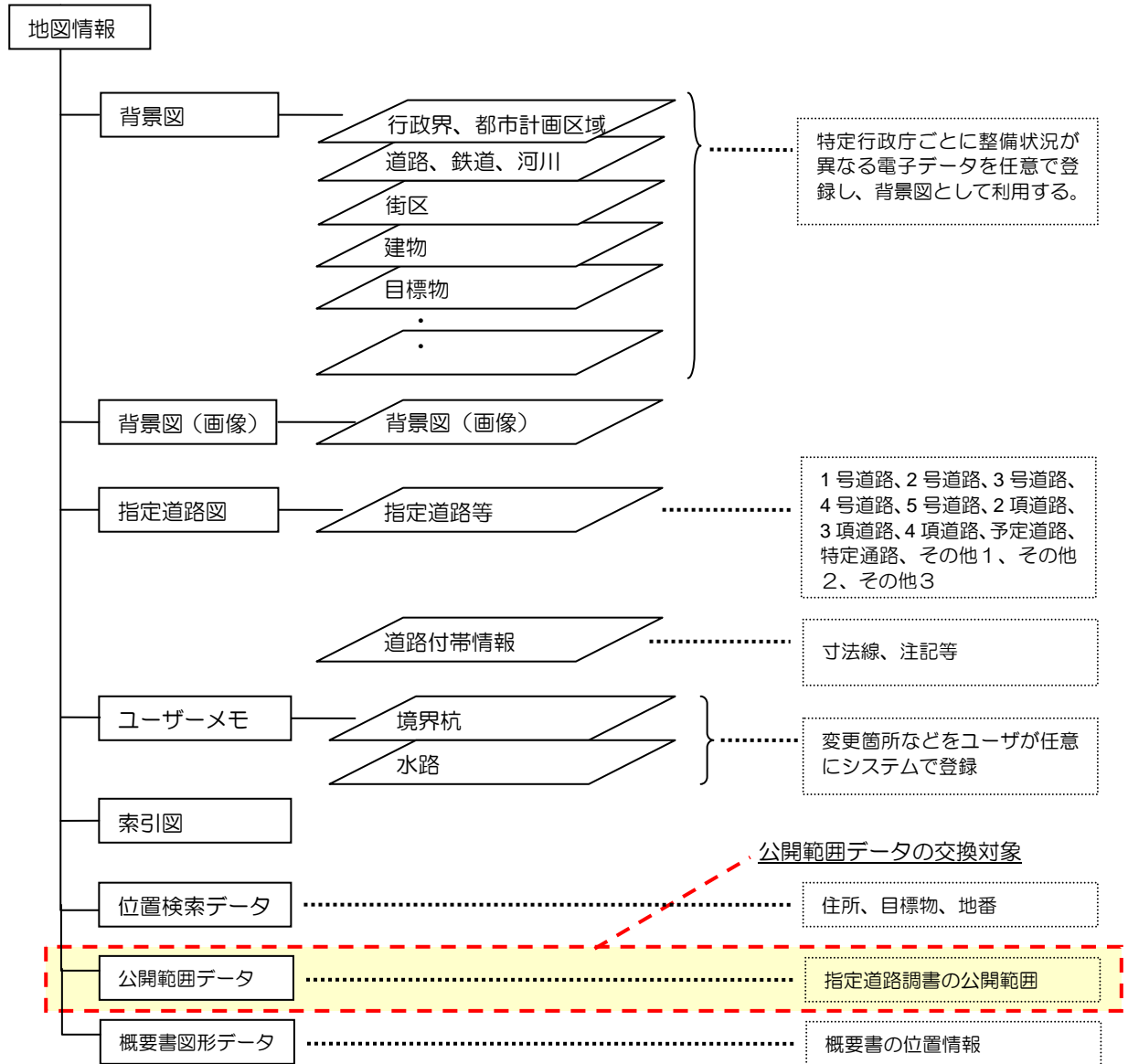


図6-1 公開範囲データとして交換対象となる範囲

6.2. 交換ファイル仕様

6.2.1. 公開範囲データの仕様

(1) 図形情報

【制約事項】

- ・ 公開範囲データの形状は、面(ポリゴン又は中抜きポリゴン)で整備することができる。
- ・ SHAPE ファイル中のポリゴン図形は一つとする。

(2) 属性情報

表6-1 公開範囲データの属性仕様

フィールド名称	フィールド名	データの型	データのサンプル
ID	ID	文字型 (10文字以内)	IDを設定する。 例 1 ・登録文字種の制限 登録可能な文字列は、10文字までとし、半角英数・記号・カタカナ、全角ひらがな・カタカナ・漢字・英数・記号とする。

6.2.2. ファイル命名規則

ファイル命名規則：(pol) +_**** (任意) +.拡張子

ファイル名と圧縮ファイル名は同名とする。圧縮ファイルは shp,shx,dbf の3ファイルを ZIP 形式で圧縮したものとする。

第7章 概要書図形データ交換仕様

7.1. 対象範囲

本システムの Ver2.0 から建築計画概要書の物件位置を概要書図形データとして整備することで地図上に表示することが可能である。また、建築共用データベースの台帳システムから出力した調書データを取り込むことで、整備した物件位置と調書を対応付けてシステムで閲覧することができる。本項では、外部地図ファイル（Shape ファイル）の論理的なデータ構造の変換仕様について記述する。なお、本システムで管理している地図情報の中で、概要書図形データの交換対象となる範囲は、以下の通りである。

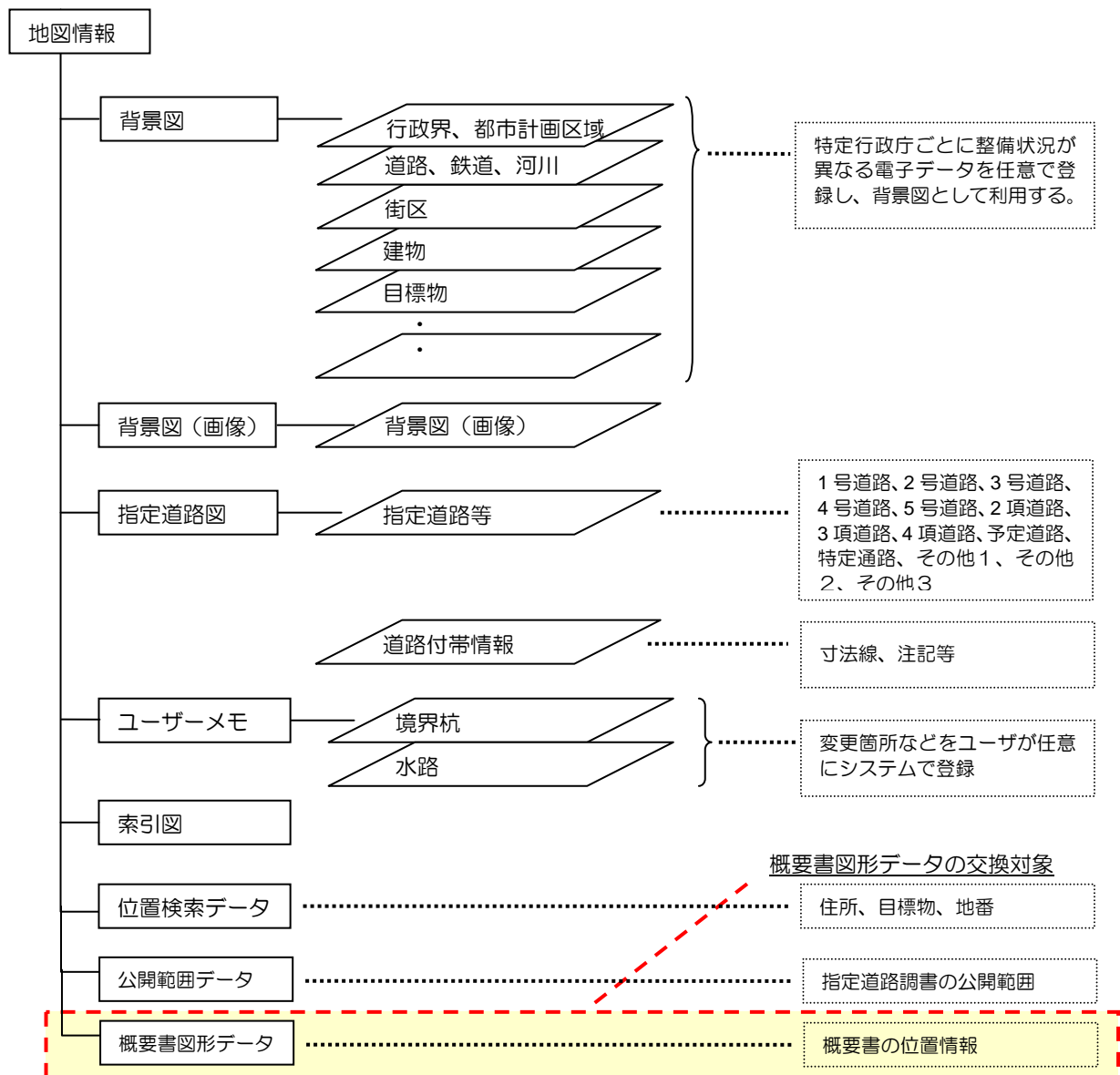


図 7-1 概要書図形データとして交換対象となる範囲

7.2. 交換ファイル仕様

交換ファイルは、Shape 形式のファイルを用いる。Shape ファイルは、取込み対象のレイヤNoのフォルダに格納する。

7.2.1. 概要書図形の仕様

(1) 図形情報

【制約事項】

- 概要書図形の形状は、面、線、点で整備することができる。

(2) 属性情報

表 7-1 概要書図形の属性仕様

フィールド名称	フィールド名	データの型	データのサンプル
受付番号	RNO	文字型 (30 文字以内)※1	受付番号を設定する。 例 H21 確申建築甲乙丙市 00005 ・登録文字種の制限 登録可能な文字列は、30 文字までとし、半角英数・記号・カタカナ、全角ひらがな・カタカナ・漢字・英数・記号とする。
確認番号	CNO	文字型 (30 文字以内)※1	確認番号を登録する。 例 H21 確申建築甲乙丙市 00003 ・登録文字種の制限 登録可能な文字列は、30 文字までとし、半角英数・記号・カタカナ、全角ひらがな・カタカナ・漢字・英数・記号とする。

※1 全角 30 文字の場合は最大 60 バイト。半角文字の場合は 30 バイト。

【補足事項】

本システムはで取込む際は、受付番号、確認番号のどちらかを設定する必要がある。

7.2.2. ファイル命名規則

ファイル命名規則：(pol、lin、pnt) +_+*** (任意) +拡張子

ファイル名と圧縮ファイル名は同名とする。

圧縮ファイルは shp,shx,dbf の3ファイルを ZIP 形式で圧縮したものとする。

7.2.3. フォルダ構成

以下に示すフォルダ構成により、データ交換を行う。1つのレイヤ No のフォルダに対し、異なる図形種別のファイルを登録してはならない。図形種別が異なる場合、別のレイヤ No のフォルダにファイルを格納すること。

フォルダ構成：X:\kenchiku\gaiyou ¥ (レイヤ No) ¥ (ファイル)

※X:は、任意のドライブを示す。

(1) 概要書図形

概要書図形で取り扱う図形種別は、点、線、面である。gaiyou フォルダの配下にレイヤ No フォルダを作成し、そこにファイルを格納する。

例

X:\kenchiku\gaiyou¥701¥

X:\kenchiku\gaiyou¥702¥

.

X:\kenchiku\gaiyou¥703¥

レイヤ No フォルダ

7.3. 作成にあたっての留意事項

7.3.1. 情報の単位

作成する概要書図形 1 つに対して、概要書の調書が 1 件のみ対応するものとする。

第8章 付録 システムへのインポート形式について

システムの管理ツールの GUI を使用してインポートする場合、データ交換仕様にもとづき作成したデータを圧縮ファイルにする必要がある。以下にインポートするためのデータ形式について詳細を示す。

表 1-1 背景図データ

ドライブ	フォルダ1	フォルダ2	ファイルまたはフォルダ	ファイル	インポート形式	
ハードディスク、CD 等	shiteizu	haikei	※ファイル extent.csv (地理的範囲定義ファイル)		非圧縮	
			※ファイル layerlist.csv (地図データリスト定義ファイル)			
			※フォルダ 500 (レイヤ No. フォルダ)			*.shp *.shx *.dbf mesh.csv(メッシュ管理ファイル)
			※フォルダ 501 ... 699			同上
			※フォルダ image			*.gif (シンボルイメージファイル)

※初期データ登録時のインポートは、管理ツールの GUI を利用しない。データ量が多いため非圧縮で一括登録できるバッチ処理を利用する。

表 1-2 背景図(画像)データ

ドライブ	フォルダ1	フォルダ2	レイヤ No.フォルダ	フォルダまたはファイル	ファイル	インポート形式	
ハードディスク、CD 等	shiteizu	haikei_image	1 ... 99	※ファイル kanri.csv (画像管理ファイルファイル)		非圧縮	
				※フォルダ scale250			※ファイル *.png (画像ファイル) *.pgw (ワールドファイル)
				※フォルダ scale500 scale1000 scale2500 scale5000 ...			同上

※背景図(画像)のインポートは、非圧縮で登録できるバッチ処理のみ

表 1-3 指定道路図データ

ドライブ	フォルダ1	フォルダ2	レイヤ No.フォルダ	ファイル	インポート形式
ハードディスク、CD等	shiteizu	shitei	101	*.shp *.shx *.dbf	非圧縮
			102	同上	
			...		
			490		

※初期データ登録時のインポートは、管理ツールの GUI を利用しない。データ量が多いため非圧縮で一括登録できるバッチ処理利用する。

表 1-4 位置検索・索引図データ

ドライブ	フォルダ1	フォルダ2	データ識別番号フォルダ	ファイル	インポート形式
ハードディスク、CD等	shiteizu	kensaku	801	※位置検索データ（住所） domain.csv city.csv major.csv	データ識別番号フォルダ配下の3ファイルをZIP形式で圧縮（フォルダは圧縮ファイルに含めない）
			811	※位置検索データ（目標物） landmarkcode.csv landmark.csv	データ識別番号フォルダ配下の2ファイルを圧縮（フォルダは圧縮ファイルに含めない）
			901	※地番検索データ（面） pol_chiban.shp pol_chiban.shx pol_chiban.dbf	データ識別番号フォルダ配下の3種類のファイルをZIP形式で圧縮（フォルダは圧縮ファイルに含めない）
			902	※地番検索データ（注記） txt_chiban.shp txt_chiban.shx txt_chiban.dbf	データ識別番号フォルダ配下の3種類のファイルをZIP形式で圧縮（フォルダは圧縮ファイルに含めない）
			921	※索引図データ *.shp *.shx *.dbf	存在するデータ識別番号フォルダ(921~939)をフォルダを含めて1つのzipファイルに圧縮
			922 ... 939	同上	

表 1-5 指定道路調書データ

ドライブ	フォルダ1	フォルダ2	ファイル	インポート形式
ハードディスク、CD等	shiteizu	choshoh	指定道路調書データ 交換ファイル (任意のファイル名)	LHA形式で圧縮 ※詳細は、第5章参照

表1-6 公開範囲データ

ドライブ	フォルダ1	フォルダ2	ファイル	インポート形式
ハードディスク、CD等	shiteizu	kokai	pol_*** (任意).shp pol_*** (任意).shx pol_*** (任意).dbf	3ファイルをZIP形式で圧縮 (フォルダは圧縮ファイルに含めない)

表1-7 概要書図形データ

ドライブ	フォルダ1	フォルダ2	レイヤ No.フォルダ	ファイル	インポート形式
ハードディスク、CD等	kenchiku	gaiyou	701 … 750	*.shp *.shx *.dbf	3ファイルをZIP形式で圧縮 (フォルダは圧縮ファイルに含めない)